



足立区

令和6年度(令和5年度事業実施分)

足立区教育委員会

の権限に属する事務の
管理及び執行状況

点検・評価報告書

足立区教育委員会
教育政策課
(令和7年1月発行)

第1章 評価概要

・ はじめに	3
・ 評価サイクル	6
・ 自己評価について	7
・ 外部評価について	11

第2章 評価シート

・ 評価シートの見方	19
施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	22
戦略1 教員の授業力向上 「わかる授業」「魅力ある授業」の実現	23
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	31
戦略3 就学前教育の推進	41
施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	46
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	47
戦略2 家庭教育支援の充実	57
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	65

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	74
施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	86
施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実	106

第1章 評価概要

はじめに

令和2年3月、足立区では、教育基本法に規定する「教育振興基本計画」として、「足立区教育振興ビジョン」を策定しました。

本計画では、区の教育行政として取り組むべき施策・事業について、毎年度のPDCAサイクルに基づく進行管理により、より効率的・効果的かつ着実な成果をめざすこととしています。

なお、評価初年度にあたる令和3年度は足立区教育振興ビジョンに示す全ての施策・事業の令和2年度実績を対象に、各所管の「自己評価」と点検・評価委員（外部有識者）による「外部評価」を行いました。

令和4年度からは点検・評価の位置付けをP4のとおり変更するとともに、より深い点検・評価が実施できるよう、表1のとおり各年度の評価対象を絞り、令和4年度から7年度までの4年間で全ての施策を2回評価していきます（※1）。

表1 点検・評価スケジュール

	R4	R5	R6	R7
施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	○	○		
施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み		○	○	
施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実		○		○
施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	○	○		
施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援		○	○	

➡ 令和6年度評価対象

- ・ 施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み（3戦略）
- ・ 施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援（3戦略）

※1 令和4、6及び7年度の評価対象外となった施策についても進捗管理のため、指標の達成度を算出することとします

＜位置付けの変更＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価することが義務付けられています。この点検及び評価の実施について、以下のとおり変更します。

1 令和3年度

(1) 教育委員会の点検及び評価(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条)

教育委員が当該年度のテーマ事業の視察後に実施する自己評価と、行政評価を代用した外部評価により実施

(2) 「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価

「足立区教育振興ビジョン」の策定に伴い、法律に基づく点検及び評価とは別に、計画に示す指標に基づき、前年度の実績を対象に評価を実施

2 令和4年度以降

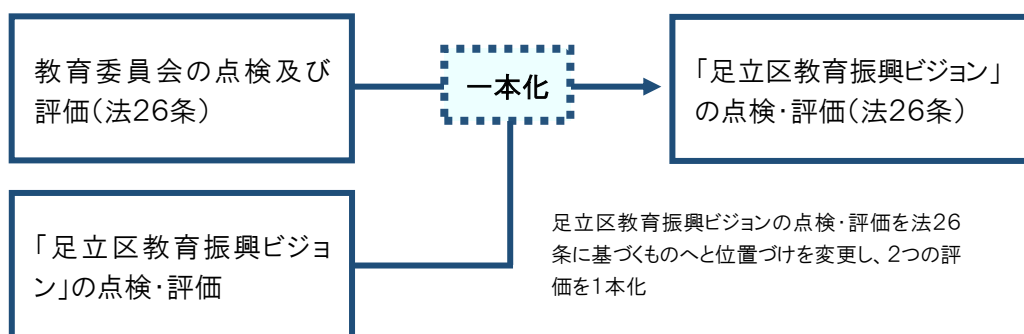
以下の理由から、「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価の位置づけを、法律に基づく「点検及び評価」へと変更し、上記2つの評価を1本化(図1)します。

- ① 「足立区教育振興ビジョンの点検・評価」は、教育に関する施策・事業の大半が対象となっている点など「点検及び評価」として十分に機能すること
- ② 外部有識者の知見を活用していること

図1 位置付け変更図

令和3年度

令和4年度以降



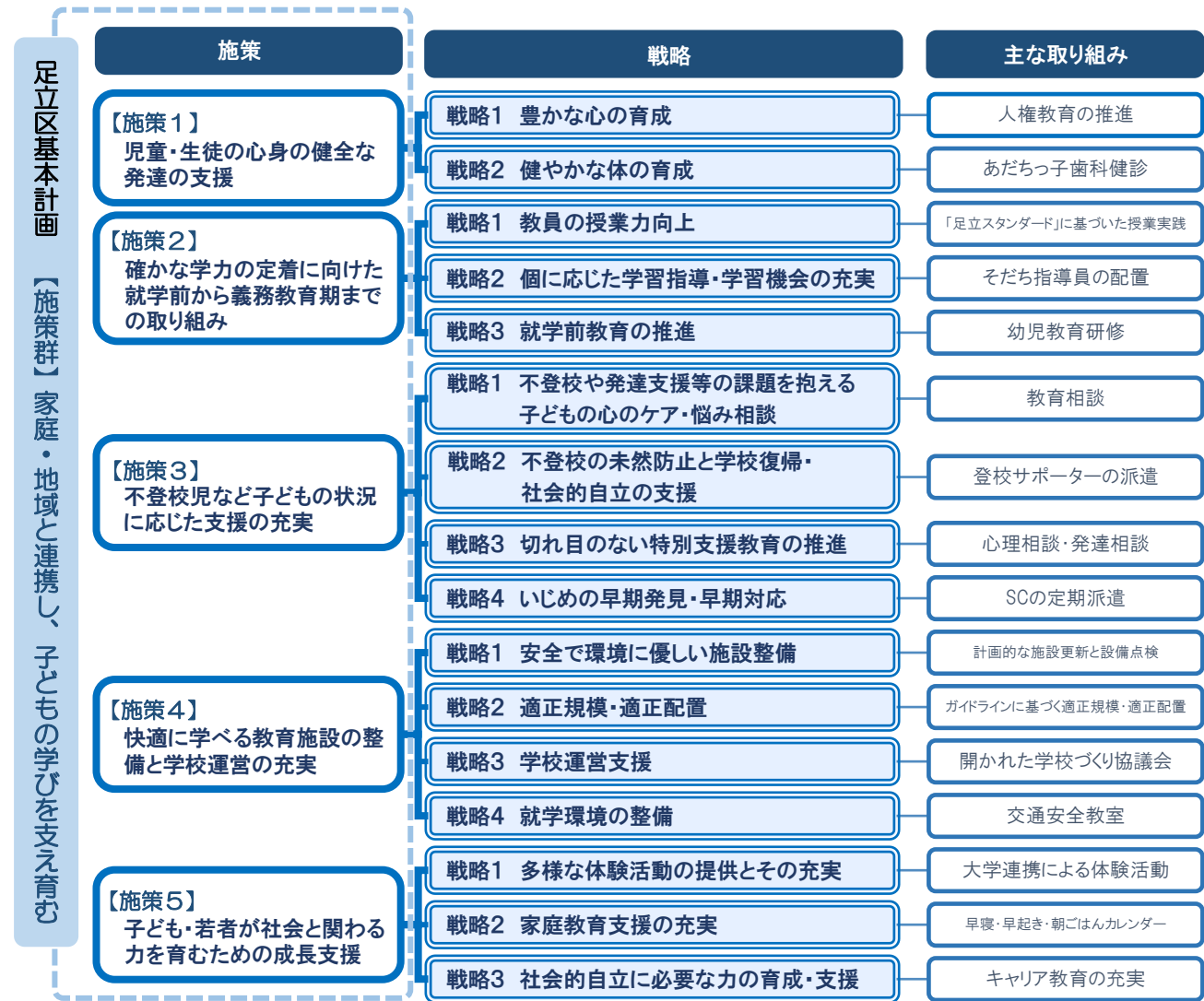
【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

＜足立区教育振興ビジョンの体系図＞

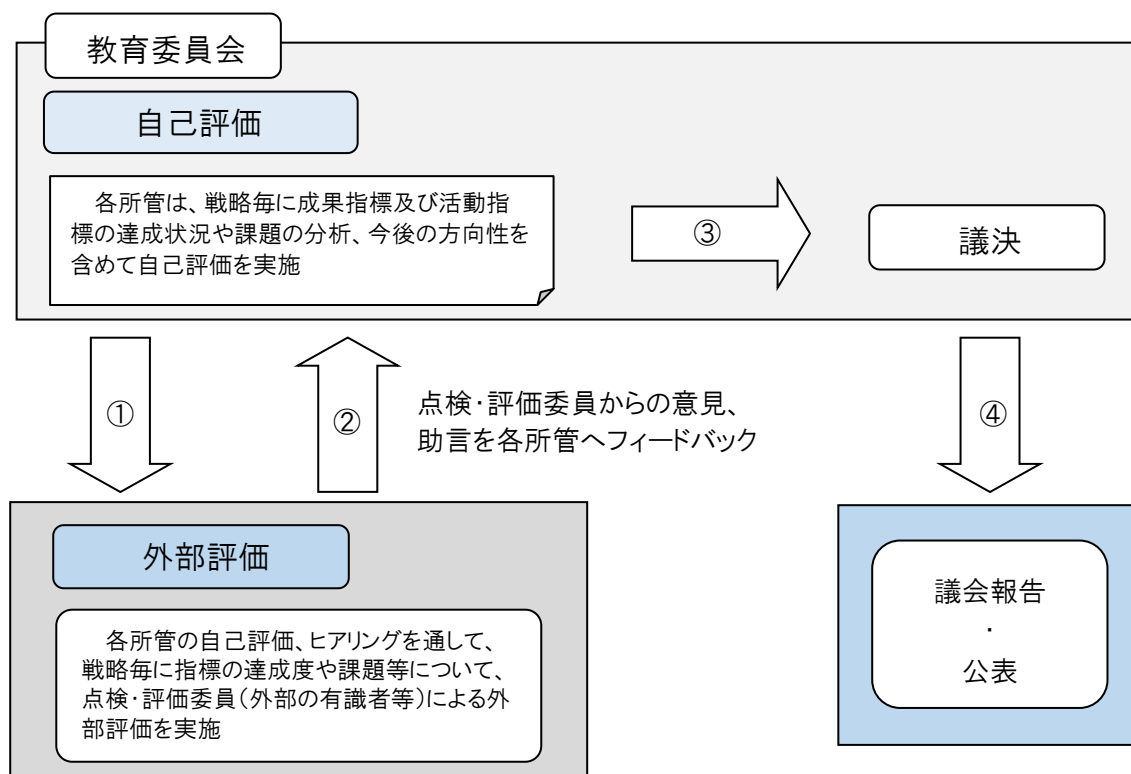
本計画は、「足立区基本計画」の分野別計画の一つで、施策群1「家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む」に分類されている5つの教育施策について、各施策を実現するための「戦略」と、戦略ごとの具体的な取り組みを示す構成で体系的に整理しました。



評価サイクル

各所管による①自己評価を実施後、外部有識者である点検・評価委員がこれを基に外部評価を実施します。これらを報告書としてとりまとめた後、各所管の来年度以降の予算編成や事業改善のために②フィードバックを行います。③その後、教育委員会の議決に付し、議決を得られた際は、④議会に結果を報告するとともに、区ホームページ上に公表します。

自己評価についての詳細はP7、外部評価についての詳細はP11をご覧ください



自己評価について

1 自己評価の流れ

各所管は戦略毎に、以下の流れで自己評価を行いました。

(1) 指標の実績値や達成状況

当該戦略の達成度を測る「成果指標」及び、戦略に沿った各事業の活動量・活動結果を測る「活動指標」の実績値や達成状況を算出しました。

(2) 指標分析

(1)を踏まえて、①実績値及び達成状況の結果②実績値、達成率へ至った要因の分析、③前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなどの視点から指標を分析しました。

(3) 課題と今後の予定、方向性

(2)を踏まえ、①前年度に生じた課題や目標達成への障害など、②今後、課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立てと、③今後の方向性を検討しました。

(4) 自己評価(活動指標のみ)

基準表1を参考に、(1)から(3)を踏まえ、A、B⁺、B、C、C⁻、D、Eの7段階評価を実施しました。なお、基準表()内の達成率は目安となっています。

基準表1 自己評価基準表(各所管が自己評価をする際の目安として活用します)

A	B ⁺	B	C	C ⁻	D	E
目標を大きく上回った (達成率140%以上)	目標を上回った (達成率120%以上)	目標通り (達成率100%以上)	概ね目標通り (達成率90%以上)	目標を下回った (達成率70%以上)	目標を大きく下回った (達成率50%以上)	目標を著しく下回った (達成率50%未満)

2 自己評価結果

(1) 結果概要(※2)

ア 令和6年度は、施策1から5に掲げる全ての指標のうち、達成率70%未満の成果指標は昨年度2%から7%となり、活動指標は昨年度同様の15%となりました。成果指標については、小学校の不登校児童・生徒数の増加を背景に、施策3で達成率70%未満の指標が、前回1指標から4指標になったことが影響しました。

イ 各所管は当該年度の活動実績に対し、44%が「目標通り実施できた」のB評価以上と評価しました。令和5年度よりもB評価以上が約9ポイント上がりしました(※2)。

ウ 活動実績は自己評価「概ね目標通りできた(90%)」のC評価以上で65%の一方、成果指標は、達成率90%以上が79%と、成果については全体としては目標通りでしたが、活動実績は十分とは言えない状況となりました。

※2 令和5年度は全施策を対象に評価を行ったため、単純に比較はできません。令和5年度との比較の記載については同じ施策2及び5同士となっています。

エ 目標通りとならなかった活動実績のうち、今回、点検・評価を行った施策2及び5では、一部コロナ禍前に依然戻っていないというものもありましたが、事業内容や周知などに課題があったため伸び悩んだものが多いという状況でした。

(2) 自己評価結果一覧

ア 令和6年度自己評価結果一覧表

P7の基準表1を参考に指標の実績値のほか、指標分析等を踏まえて所管の判断で行う自己評価をまとめたものです。

施策名・戦略名	活動指標数									計	ページ
	A	B ⁺	B	C	C ⁻	D	E	評価 不能			
【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み											
戦略1 教員の授業力向上	0(0)	0(0)	3(2)	1(3)	3(2)	1(0)	1(1)	0(1)	9(9)	23	
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	0(0)	0(0)	5(4)	4(2)	2(3)	1(1)	0(1)	0(1)	12(12)	31	
戦略3 就学前教育の推進	0(0)	1(1)	4(2)	0(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(5)	41	
【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援											
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	0(0)	0(0)	6(2)	3(5)	2(2)	1(1)	1(2)	0(0)	13(12)	47	
戦略2 家庭教育支援の充実	1(0)	0(2)	0(1)	2(0)	1(0)	1(2)	2(0)	0(0)	7(5)	57	
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	0(0)	0(1)	4(2)	2(0)	1(2)	1(0)	0(1)	1(0)	9(6)	65	
【集計】											
活動指標数	1	1	22	12	9	5	4	1	55		
割合(%)	1.8	1.8	40.0	21.8	16.4	9.1	7.3	1.8	100		

数値は活動指標数を示しています。

例えば、施策2の戦略2に掲載している活動指標(計12指標)の中で、自己評価をB評価としたものが5指標、Cが4指標、C⁻が2指標、Dが1指標であったことを示しています。

()内は昨年度の数値となっています。

新規設定指標のうち、目標値設定が困難で評価不能となっているものがあります。

表
の
見
方

イ 指標の達成状況一覧

成果指標および活動指標の達成率を示したものです。

こちらは施策1から施策5までの全ての指標の集計となっています。

	活動指標		成果指標	
達成率	159指標(156)	比率(%)	108指標(104)	比率(%)
50%未満	9(11)	5.7(7.0)	2(1)	1.9(0.9)
50%以上	15(12)	9.4(7.6)	5(1)	4.6(0.9)
70%以上	19(22)	12.0(14.1)	12(17)	11.1(16.3)
90%以上	39(32)	24.5(20.5)	50(45)	46.3(43.3)
100%以上	59(61)	37.1(39.1)	28(29)	25.9(27.8)
120%以上	6(6)	3.8(3.8)	4(5)	3.7(4.8)
140%以上	8(3)	5.0(1.9)	3(3)	2.8(2.8)
測定不可	4(9)	2.5(5.7)	4(3)	3.7(2.8)

()内は昨年度の数値

表の見方

表
の
見
方

- 1 成果指標・活動指標それぞれの令和5年度実績の目標値に対する達成率の分布を示しています。
- 2 成果指標と活動指標の関係ですが、複数の活動を行うことで、1つの成果につながるものもあるため、必ずしも対になっているわけではありません。
- 3 比率は、四捨五入しているため、その合計値は必ずしも100にはなりません。
- 4 令和6年度点検・評価では主に施設に関するもので、既に完了済や計画の後ろ倒しにより活動指標は4指標、成果指標は2指標が測定不可となりました。
- 5 指標の新規設定等により指標数は昨年度と今年度とで異なります。

外部評価について

1 外部評価の流れ

点検・評価委員は、以下の流れで指標の達成度や課題等について、戦略毎に外部評価を実施しました。

【令和6年度点検・評価委員】

＜学校教育分野＞ 横浜国立大学 石塚 等教授

＜就学前教育分野＞ 日本体育大学 齊藤 多江子教授

(1) 自己評価シートの確認とヒアリングの実施

点検・評価委員は、各所管が作成した自己評価シートを確認するとともに、疑問点の確認など、点検・評価に必要な情報を聞き出してもらうため、所管とのヒアリングを実施しました。

(2) 評価の実施

点検・評価委員は、(1)を踏まえ、以下のとおり評価を行いました。

ア P12の「基準表1 観点別評価基準表」に示す4つの評価観点から、施策・事業全体に対する意見・提言。

イ 4つの評価観点について、7段階の観点別評価を実施するとともに、P12の「基準表2 全体評価基準表」に基づき、AからEまでの7段階で全体評価を実施。

ウ 全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言。

基準表1 観点別評価基準表

評点	評価観点			
	①助言や今後の期待・要望への反映率	②目標・成果の達成状況	③各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	④児童・生徒にとって真に効果的か
1	評価(助言)が全く反映されていない。 (反映率:0%程度)	多くの取組みに課題があり戦略の目標達成のための成果が出ていない。改善が必要である。		多くの取組みに課題があり、効果的でない。改善が必要である。
2	評価(助言)の反映が消極的である。 (反映率:20%程度)	いくつかの取組みにおいて課題があり、戦略の目標達成に向けた成果があまり出ていない。	各取組みが戦略の方向性に合致しておらず、手法の選択も抜本的に見直す必要がある。	いくつかの取組みにおいて課題があり、あまり効果的ではない。
3	評価(助言)を多少反映した。 (反映率:30%程度)	・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、多くの取組みに課題が見られる。	各取組みが戦略の方向性と合わない部分があり、手法の選択もやや課題がある。	いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、改善が必要である。
4	評価(助言)をある程度反映した。 (反映率:50%程度)	・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、課題が見られる。	各取組みが戦略の方向性に概ね適切であるが、手法の選択にやや課題がある。	いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。
5	評価(助言)を積極的に反映した。 (反映率:70%程度)	優れた取組みがいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	優れた取組みがいくつかあり、効果的である。
6	評価(助言)をより積極的に反映した。 (反映率:80%程度)	優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。	優れた取組みが多く、効果的である。
7	評価(助言)以上に反映した。 (反映率:100%以上)	優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため積極的に推進すべきである。	優れた取組みが多く、非常に効果的である。

基準表2 全体評価基準表【前年度評価対象外であった施策2、3及び5は()内の基準で評価】

評定 合計値	28～26 (21～20)	25～23 (19～17)	22～20 (16～14)	19～16 (13～12)	15～12 (11～9)	11～8 (8～6)	7～5 (5～4)
評価	A	B ⁺	B	C	C ⁻	D	E

2 外部評価結果

(1) 結果概要(※3)

ア 令和6年度点検・評価の対象となった全6戦略中、B評価が最も高く3戦略、C評価が3戦略と、C評価以下の評価はありませんでした。

イ 全体評価Bを受けた中でも基準点が最も高かったのは施策5-戦略2「家庭教育支援に充実」でした。

【評価されたポイント】

今回新規に追加した指標は、家庭教育支援の充実の「めざす方向性」に沿った内容になっていると、観点1で評点6の評価となりました。

また、本戦略で目指されている規則正しい生活リズムの定着、保護者同士がつながる機会の提供は、保護者の意識に着目したものとなっており、一定の評価ができるなど、観点2から4は評点5の評価となりました。

ウ 今回の評価で最も低いCの評価を得たのは、3戦略で、いずれも昨年度と同様の評価となりました。

＜施策2-戦略1「教員の授業力向上」＞

成果指標については、概ね全体的には成果はあがっているものの、中学校は「授業がわかる」に肯定的な回答をした割合は低下傾向にあり、また、全国学力・学習状況調査における平均正答率も特に数学は国の平均正答率を大きく下回っていること、ICTの活用状況に課題が見られることなどから、C評価となりました。

＜施策2-戦略2「個に応じた学習指導・学習機会の充実」＞

足立区学力定着に関する総合調査における、中学校の通過率が目標値を下回っていることや、各事業の活動指標の目標値の達成率などが要因で、C評価となりました。

＜施策5-戦略3「社会的自立に必要な力の育成・支援」＞

全体的な傾向として、一部を除きほとんどの指標で目標値を達成したり、中学校における租税教室の開催割合など改善が見られるものの、一部目標値を下回ったものがあつたことが要因でC評価となりました。

エ 観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」は今年度評価対象の6戦略中1戦略が「評価(助言)を積極的に反映した(80%)」の評価6、5戦略が「評価(助言)を積極的に反映した(70%)」の評価5でした。

目標値達成に向けた分析や新たな指標の設定など、助言が反映されていると評価されました。

※3 令和5年度は全施策を対象に評価を行ったため、単純に比較はできません。令和5年度との比較の記載については同じ施策2及び5同士となっています。

オ 観点2「目標・成果の達成状況」は5戦略が「成果が出ている」の評価5以上でした。

概ね目標値を上回っているなど、評価5が4戦略で、特に施策2－戦略3「就学前教育の推進」は、成果指標、活動指標ともに全ての指標で目標値を上回っており、評価6でした。

カ 観点3「各取組みが戦略の方向性に沿ったものか」は今年度評価対象の全6戦略で「方向性に合致しており、手法も概ね適切である」の評価5でした。

平均5点と、概ね戦略の方向性に沿って実施されたと評価されました。例えば施策2－戦略2「個に応じた学習指導・学習機会の充実」は、学力未定着層から学力上位層にいたるまで子ども一人ひとりに応じた指導の充実に向け、子どもの多様な実態に対応した取組みを実施しており、戦略の方向性に合致すると評価されました。

キ 観点4「児童・生徒にとって真に効果的か」は6戦略中4戦略が「さらなる努力が必要である」の評価4となりました。

観点4は、指標の達成率に課題があった戦略を中心に、取り組みは概ね効果的であるが、さらなる改善が必要と評価され平均4.3点と昨年度と同様の2戦略が評価5、4戦略が評価4となりました。

(2) 外部評価結果一覧

ア 令和6年度観点別評価及び全体評価一覧

施策名・戦略名		観点1 反映率	観点2 達成状況	観点3 方向性	観点4 効果的	全体	全体 (前年)	ページ
【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み								
戦略1	教員の授業力向上	5 ⁽⁻⁾ /7	4 ⁽⁴⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	4 ⁽⁴⁾ /7	C	C	29
戦略2	個に応じた学習指導・学習機会の充実	5 ⁽⁻⁾ /7	5 ⁽⁴⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	4 ⁽⁴⁾ /7	C	C	39
戦略3	就学前教育の推進	5 ⁽⁻⁾ /7	6 ⁽⁵⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	4 ⁽⁴⁾ /7	B	B	45
【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援								
戦略1	多様な体験活動の提供とその充実	5 ⁽⁻⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	B	B	55
戦略2	家庭教育支援の充実	6 ⁽⁻⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	B	B	63
戦略3	社会的自立に必要な力の育成・支援	5 ⁽⁻⁾ /7	5 ⁽⁴⁾ /7	5 ⁽⁵⁾ /7	4 ⁽⁴⁾ /7	C	C	71

()内は昨年度の数値となっています。ただし、施策2及び5は令和4年度に評価を受けていないため、前年度の評価を踏まえて点数付けを行う観点1は「-」としています。

イ 全体評価及び各戦略の観点別評価集計表

(ア) 全体評価集計表(Aが最高評価)

評点	全体評価(戦略数)	割合(%)
A	0(0)	0(0)
B ⁺	0(3)	0(0)
B	3(3)	50.0(50.0)
C	3(0)	50.0(50.0)
C ⁻	0(0)	0(0)
D	0(0)	0(0)
E	0(0)	0(0)
合計	6(6)	100

()内は昨年度の数値の内、施策2及び5の数値

(イ) 観点別評価集計表(7が最高評価)

評点	観点1(※4)		観点2(※4)		観点3(※4)		観点4(※4)		戦略数	割合(%)
	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)		
1	0(-)	0(0)	0(0)	0(0)			0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2	0(-)	0(0)	0(0)	0(0)			0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
3	0(-)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
4	0(-)	0(0)	1(3)	16.7(50.0)	0(0)	0(12.5)	4(4)	66.7(66.7)	5(7)	20.8(38.9)
5	5(-)	83.3(0)	4(3)	66.7(50.0)	6(6)	100(100)	2(2)	33.3(33.3)	17(11)	70.8(61.1)
6	1(-)	16.7(0)	1(0)	16.7(0)	0(0)	0(0)	0(3)	0(0)	2(0)	8.3(0)
7	0(-)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
平均点	5.2(-)		5.0(4.5)		5.0(5.0)		4.3(4.3)		4.9(4.6)	
戦略数	6(-)		6(6)		6(6)		6(6)			

()内は昨年度(=令和5年度)の数値です。令和5年度は全施策を対象に評価しましたが、その内、施策2及び5の数値となっています。

なお、観点1のみ、令和4年度評価(=対象は施策1及び4の6戦略)での点検・評価委員からの助言に対しどの程度反映させたかを評価する観点であり、施策2及び5には評点がついていないことから、「-」となっています。

※4 観点1から観点4は以下のとおりです。

- ・ 観点1 助言・今後の期待への反映率(前年度評価を受けての反映状況)
- ・ 観点2 目標・成果の達成状況
- ・ 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか
- ・ 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か

第2章 評価シート

評価シートの見方

1 自己評価シート（各所管が作成）

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達
戦略1 豊かな心の育成

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達

戦略1 豊かな心の育成

■実績値と目標値の記載

各所管は当該年度の実績値と次年度の目標値を記載

ただし、令和2年度の目標値は既存の計画等で定めていた場合など一部を除き、令和6年度目標値を割り返した数値としている。

また、達成率は実績値/目標値（低減目標の場合は目標値/実績値）としている。

戦略の達成度を測る成果指標				所管による自己評価														
No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)				■課題と今後の予定、方向性				自己評価
成果1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	72	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	72.8	63.3	73.4	64	-	-	-	77	70		
				達成率	-	-	-	-	-	0%	0%	-	-	-	0%	0%		
成果2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	93	92.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	93.3	92.8	93.5	85	-	-	-	95	95		
				達成率	-	-	-	-	-	0%	0%	-	-	-	0%	0%		
成果3	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のきまりを守っている」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	86.3	93.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	86.9	93.6	87.2	93.7	-	-	-	90	95		
				達成率	-	-	-	-	-	0%	0%	-	-	-	0%	0%		

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)

各所管は、指標の実績値や達成率を踏まえて以下の視点から指標を分析

① 実績値及び進捗状況の結果

② 実績値・達成率へ至った要因の分析

③ 前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなど

成果指標を達成するための活動指標				所管による自己評価															
No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)				■課題と今後の予定、方向性				自己評価	
活動1	教育指導課	教員対象の人権教育の研修会の参加 小・中学校の割合【参加延べ人数】	%	実績値	100	96.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 C-		
				目標値	-	100	97.2	-	-	-	-	100							
			人	実績値	291	130	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	2 D
				目標値	-	294	294	-	-	-	-	306							

■課題と今後の予定、方向性

各所管は「指標分析」を踏まえて以下の内容を記載

① 前年度に生じた課題や目標達成への障害など

② 今後、これらの課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立て

③ 今後の方向性(見通し)

■自己評価

各所管は活動指標のみ、実績値のほか、指標分析を踏まえ、7段階で評価を実施

A	B ⁺	B	C	C ⁻	D	E
目標を大きく上回った (達成率 140%以上)	目標を上回った (達成率 120%以上)	目標通り (達成率 100%以上)	概ね目標通り (達成率 90%以上)	目標を下回った (達成率 70%以上)	目標を大きく下回った (達成率 50%以上)	目標を著しく下回った (達成率 50%未満)

19

2 点検・評価シート（点検・評価委員が作成）

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略1 健やかな体の育成

【点検・評価委員による評価】

全体評価	今後の期待・要望
------	----------

■全体評価

点検・評価委員は、所管の作成した評価シートと質問シートやヒアリングを通じて得られた情報に基づき、観点1から4までの4つの観点から施策・事業全体に係る意見や提言を記載。

■全体評価レーダーチャート

戦略の強みや弱みが分かるよう、外部評価をレーダーチャートで表記

■全体評価(7段階)

観点別点数の合計点を算出し、P12の表2を基準としてA、B⁺、B、C、C⁻、D、Eまでの7段階で全体評価を実施。

■今後の期待・要望

点検・評価委員は、全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言を記載

全体評価レーダーチャート

【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か
5	3	5	5

■観点別評価

観点1 助言・今後の期待への反映率(前年度評価を受けての反映状況)
 観点2 目標・成果の達成状況
 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか
 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か

の4つの観点について、P12の「基準表1 観点別評価基準表」を基準に1から7までの7段階評価を実施。

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み

戦略1	教員の授業力向上 -「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-	23
戦略2	個に応じた学習指導・学習機会の充実……………	31
戦略3	就学前教育の推進……………	41

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	学校ICT推進課 学力定着推進課 教育指導課
戦略1	教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6							
成果1	1	学力定着推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした割合	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中			
					実績値	89.3	73.9	-	-	88.2	68.1	87.7	67.4	87.9	66.5			
					目標値	-	-	-	-	90	80	90	80	90	80	90	80	
					達成率	-	-	-	-	98%	85%	97%	84%	98%	83%	-	-	
成果2	2	学力定着推進課	「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差(※1)	%		小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3			
					国	実績値	※2		-	-	4.5	-0.4	1.5	-3.3	0.7	-0.5		
						目標値	-	-	-	-	2	0.5	3	1	3	0	5	2
						達成率	-	-	-	-	104%	99%	98%	94%	97%	99%	-	-
					算(数)	実績値	※2		-	-	2.6	-2	1.8	-2.1	1.3	-3		
						目標値	-	-	-	-	1.5	0	2	0.5	2	0.5	3	1
						達成率	-	-	-	-	102%	97%	100%	94%	99%	93%	-	-
成果3	3	学校ICT推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」で、「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う」に肯定的な回答をした割合(令和元年度より実施)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中			
					実績値	-	-	-	-	74.3	65.9	74.3	66.9	75.1	68.3			
					目標値	-	-	-	-	72.5	63.5	75	65	75	70	80	70	
					達成率	-	-	-	-	102%	104%	99%	103%	100%	98%	-	-	

※1 成果指標2の達成率の算出方法
区正答率÷(国正答率+目標値)×100

※2 平成30年度「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差
＜小学6年生＞ ＜中学3年生＞
国語A 0% 国語A -1.5%
国語B 3% 国語B -1.1%
算数A 2.9% 算数A -2.4%
算数B 1.4% 算数B -2.7%

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

めざす方向性	学校における教育活動の根幹は「わかる授業」「魅力ある授業」です。これらを実現するため、教員の授業力向上や授業改善の支援に取り組む必要があります。 従来の教員研修やOJTによる育成をはじめ、高い専門性や指導経験を備えた教員経験者による指導、授業改善ツールとしての足立スタンダードやSP表の活用と充実を図り、教員の授業力向上を支えます。 また、大型ディスプレイやタブレット型PC、デジタル教科書などの学校ICT機器等を活用し、より魅力的でわかりやすい授業を実現できる環境づくりを進めます。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした割合は小学生87.9%、中学生66.5%であった。小学生は前回調査をわずかに上回り、目標値に近づいてきているが、中学生は目標値及び前回調査を下回る結果となった。 児童・生徒にとって「わかる授業・魅力ある授業」の実施に係る取組を継続しているものの、特に中学校について課題が残る結果となった。	【課題】 当区は、若手教員が多く配置されるため、常に若手教員に対する指導力の育成・向上のための支援が必要となる。 また、「足立スタンダード」に基づいた授業の実施が、小学校と比較して中学校で徹底できていないことも課題である。 【今後の予定・方向性】 教科指導専門員による巡回指導や教科別研修に加え、令和5年度に再開した大仙市教員派遣事業派遣者の成果共有を行い、具体的な実践事例を横展開していく。特に中学校においては、教員主導の授業から生徒主体の授業へと転換を図り、児童・生徒が「わかる授業」「魅力ある授業」を届けたい。
「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差は、小学校6年生は、国語が+0.7ポイント、算数は+1.3ポイントと2教科とも国の正答率を上回ることができた一方、2年度連続して国との正答率の差が減少している。 一方、中学3年生は国語が-0.5ポイント、数学は-3ポイントと2教科とも国の正答率を下回った。国語は、国の正答率まであと一歩のところまで近づいたが数学は昨年度よりも厳しい結果となった。 成果指標No.1と同様の背景から、その結果の現れと考える。	【課題】 小学校段階では国の平均正答率を上回ることが出来ている一方、中学校になると国の平均正答率を下回る傾向が続いている。小・中学校が連携することで、学びの連続性を担保し、学力の維持・向上を図る必要がある。 【今後の予定・方向性】 小・中学校合同での研修や授業交流などにより、9年間を見通した授業づくりや学びの連続性を意識した小中連携教育を引き続き実施する。また、教科指導専門員制度や大仙市教員派遣事業等による教員の授業力向上の取組、AIDリルをはじめとした個に応じた学習環境の提供により、確かな学力の定着に繋げていく。
小・中学校ともに、授業や学校活動においてタブレット端末をコミュニケーションツールとして活用することが定着しつつある中、小学校においては目標値を上回る割合になっている。中学校は目標値には達しなかったが、昨年度を1.4ポイント上回った。	【課題】 タブレット端末の活用については、定着しつつあるものの、学級・学校によって使用頻度に差がある。 【今後の予定・方向性】 ホームページや教員向けのニュースレターで他校の取り組みを紹介する他、モデル校の公開授業を通じて、各校の好事例を横展開する。使用頻度が低い学校に対して、ICTスキルに応じた研修や、様々な教科や授業の場面でのコミュニケーションツールとしての活用方法を提示している公開授業の参観を促すことで、活用する機会の増加を図る。

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
						小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
成果	4	学校ICT推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」で、「インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できる」に肯定的な回答をした割合（令和5年度変更指標）	%	実績値	-	-	-	-	-	-	-	-	66.1	62.0		
					目標値	-	-	-	-	-	-	-	-	70	70	70	70
					達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	94%	89%	-	-

成果指標を達成するための活動指標

	No	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
活動	1	教育指導課	「足立スタンダード」実践の小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100							
					目標値	-	100	100	100	100	100						
					達成率	-	100%	100%	100%	100%	-						
活動	2	学力定着推進課	教科指導の対象となる教員が教科指導専門員から受けた指導の回数(教員一人あたり)	回/人		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
					実績値	9.9	17.6	7.9	13.8	7.1	12.8	6.6	14.7	9.0	13.9		
					目標値	-	-	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20
					達成率	-	-	79%	69%	71%	64%	66%	74%	90%	70%	-	-
活動	3	学力定着推進課	英語教育アドバイザーの配置(支援)時数 (小学校外国語活動アドバイザーより名称変更)	時数	実績値	13,557	14,267.5	12,033	11,438	6113							
					目標値	-	24,646	24,451	24,255	24,426	24,941						
					達成率	-	58%	49%	47%	25%	-						
活動	4	教育指導課	教員研修(1～4年次研修)の受講修了割合	%	実績値	84.2	91.2	97.3	88.4	92.4							
					目標値	-	86.8	93.4	97.5	90	100						
					達成率	-	105%	104%	91%	103%	-						

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
活用の底上げが図られているが、小学校が94%、中学校が89%と中学校の方が低調である。中学校において目標値の達成率が低いのは、高校受験に向けた知識伝達型の授業形態が多く、インターネットや図書等を使った情報収集をする機会が少ないことも一因といえる。	【課題】 授業におけるインターネットや図書等から情報収集する機会が学校によって差がある。 【今後の予定・方向性】 ホームページや教員向けのニュースレターで他校の取り組みを紹介する他、モデル校の公開授業を通じて、各校の好事例を横展開する。インターネットや図書等から情報収集する機会が少ない学校に対して、研修や情報発信等を通じて様々な教科や授業の場面での活用方法を提示していくことで、児童・生徒が情報収集や考えの整理をする機会の増加を図る。

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
区立学校教員により組織する「足立スタンダード委員会」を令和5年度も小学校5教科等(国語、社会、算数、理科、外国語・外国語活動)、中学校5教科(国語、社会、数学、理科、外国語)で設置し、伝達授業を実施していることの成果であると考えられる。 教育指導課においては、1年次の教員に対して、伝達授業への参加を課題別研修に位置付け、4年次の教員に対して、足立スタンダードに基づく授業の所属校での公開・実施を校内における研修に位置付けた。研修を通して、足立スタンダードの理念が各校に伝わり、校内での授業実践が行われていると考える。	【課題】 若手教員の授業力向上を図るために、伝達授業を参観する教員を増やし、「足立スタンダード」の理解を深めていく必要がある。 【今後の予定・方向性】 3年次の教員に対して、選択研修に位置付け、より多くの教員が伝達授業に参加できるようにすることで足立スタンダードの授業実践につなげる。	1	B
小学校は指導回数が前年度より増加したが、目標値には届かなかった。 実績値は全指導対象者を分母としている。転入者は数回の指導で終了とする一方、主たる指導対象者(採用から概ね1～5年目)には、重点的に相当数の指導・助言を行っている。	【課題】 今後も教員個々の力量や課題に応じて指導・助言していく必要がある。 【今後の予定・方向性】 ベテラン教員の減少に加え、新規採用職員を含む若手教員が多い当区の現状を踏まえ、学校管理職の理解と協力を得ながら、教科指導専門員による授業観察と事後指導を行い、教員の授業力向上に取り組んでいく。	2	C-
アドバイザーの退職により人員減となったため、目標値を大きく下回った。 人員減となったことから一人あたりの担当校を増やすとともに業務内容を見直し、英語専科の配置や教科担任制により、アドバイザーの支援を真に必要とする学校・教員に重点を絞り、授業支援を中心に行った。	【課題】 英語教育アドバイザーの実人員の減少に伴い、配置時間数の確保が困難となっている。 【今後の予定・方向性】 引き続き人員減に対応した英語教育支援の見直し、英語専科教員や都時間講師の活用により、必要な支援を行うとともに、ALT(外国語指導助手)派遣の拡充など業務内容の見直しを検討していく。	3	E
目標値は上回ったものの、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等への罹患により欠席する教員がおり、受講修了割合は9割程度の数値が続いている。	【課題】 年度内に受講完了となる教員の割合を増やす。 【今後の予定・方向性】 学校事情等で参加できなかった教員に対しては、研修資料等を送付し、研修と同様の内容を習得できるようにし、年度内での研修修了者を増やす。	4	B

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
活動5	学力定着 推進課	先進自治体への教員派遣人数	人	実績値	12	-	-	-	12							
				目標値	-	12	12	12	12	12						
				達成率	-	-	-	-	100%	-						
活動6	学校ICT推 進課	教員用タブレット端末等を使用して授 業を実施した教員の割合(令和元 年度より実施)(令和4年度目標値変更 指標)(※1)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
				実績値	-	-	85.4	82.1	94.3	89.5	77.6	66.7	78.3	67.8		
				目標値	-	-	-	-	80	80	100	100	100	100	100	100
達成率	-	-	-	-	118%	112%	78%	67%	78%	68%	-	-				
活動7	学校ICT推 進課	児童・生使用タブレット端末を使用し て授業を実施した教員の割合(令和 元年度より実施)(※2)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
				実績値	-	-	41	16.9	76.3	50.1	91.2	27.6	94.5	33.2		
				目標値	-	-	-	-	80	50	100	100	100	100	100	100
達成率	-	-	-	-	95%	100%	91%	28%	95%	33%	-	-				
活動8	学校ICT推 進課	プログラミング教育の実施回数(タブ レット端末使用・教員の割合)(※3)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
				実績値	-	-	80.7	94.3	68.9	97.2	79.5	82.6	49.2	78.3		
				目標値	-	-	-	-	80	80	80	80	80	80	80	80
達成率	-	-	-	-	86%	122%	99%	103%	62%	98%	-	-				
活動9	学力定着 推進課	小中連携による学力向上に係る研 究・研修会の実施回数	回	実績値	245	67	227	226	243							
				目標値	-	245	245	245	245	245						
				達成率	-	27%	93%	92%	99%	-						

※1 教員用タブレット端末等を使用して授業を実施・・・「小学校:担任する学級において、週5時間以上」、「中学校:担当する全学級において、国語・
※2 児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施・・・「小学校:担任する学級において、週1回以上」、「中学校:担当する全学級において、国語・
※3 プログラミング教育の実施・・・「小学校:小学5～6年生の学級担任が担任する学級で、総合的な学習の時間またはいずれかの教科において教員
教員用または生徒用タブレット端末を用いての実施が年間2時間以上」

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
秋田県大仙市に合計12名を派遣した。内訳は小学校教員6名、中学校教員6名であるが、小学校副校長1名を筆頭に、主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭とすべての職層から教員を派遣することができた。4年ぶりの派遣のため、派遣先との調整を重ね、派遣の趣旨や目的等を明確にし、校長会へ推薦を依頼した結果だと考える。 派遣後には11月に区内への公開授業、12月に教育委員への報告、1月に小中連携研修会での報告、2月に区長への報告会等、区内への成果の発信や還元を行った。	【課題】 成果として発信や還元を行った授業スタイルを、区内各学校へ展開し、理解と定着を促進する。過年度派遣者を含む過去の成果等の有効的な利活用を図る。 【今後の予定・方向性】 令和6年度の派遣期間は8月26日(月)から30日(金)までを予定している。令和5年度及び令和6年度派遣者の授業公開等を実施することや一人一台端末の活用を踏まえた授業スタイルへの洗練を進めていく。	5	B
小学校では教員用タブレット端末の使用頻度が週5時間に達していない教員が2割程度、中学校では3割程度いる状況である。週3時間以上使用している教員は小学校95.9%、中学校86.8%であり、週1時間未満しか使用していない教員は小学校で0.9%から0.3%に減少、中学校で5.4%から4.5%に減少しているため、教員に一定のスキルは定着しているといえる。	【課題】 指標を達成している教員と達成していない教員とでは、ICTスキルチェックの達成状況に明らかな差がある。 【今後の予定・方向性】 初心者向けの研修を充実すると共に、認定教育者資格取得者やICT支援員等の校内人材を活用した校内研修の実施を促す。各校管理職と共有しているICTスキルチェックの結果より、校内研修の内容・ターゲットを明確にすることで、校内のICTスキルの底上げを図る。	6	C-
小学校は全体的に活用が進んでいる。中学校は小学校と比べると活用が低調であるが、週1時間以上使用した教員の割合は令和4年度が57.7%だったのに対し、令和5年度は66.7%と増加している。	【課題】 特に中学校において、教員間・学校間の使用の差が大きい。何から始めていいか、何を聞いていいかわからない場合も見受けられる。 【今後の予定・方向性】 中学校のICTモデル校において、初心者向けの研修の充実を図るなど、各教員のICTスキルに応じた研修を実施し、活用事例を横展開する。	7	D
プログラミング教育を年間2時間以上実施した教員の割合には減少が見られたが、年間1時間以上実施した教員の割合は小学校83.0%、中学校82.6%となっている。これは、タブレット端末を使用したプログラミング教育と使用しないプログラミング教育(アンブラグドプログラミング教育)の実施方法により変動するためといえる。	【課題】 小学校におけるタブレット端末を使用してプログラミング教育の授業を実施した教員の割合が、昨年度より30ポイント減となっている。 【今後の予定・方向性】 タブレット端末を使用したプログラミング教育と使用しないプログラミング教育など、実施方法が多岐に渡るため、実態に即した指標に変更する。	8	C-
令和5年度も対面・集合型、オンライン型を併用し、各グループが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に係る研究会を年間6回以上、共通課題の解決に向けた研究・研修会を数回、計7回以上を目安に実施した。 小中連携計画書には、エビデンスに基づいた児童・生徒像、連携校間における共通実践事項、取組の評価指標を記載するようにした。また、小中連携報告書には、設定した評価指標に基づき、年間の取組を振り返り、改善点を明らかにすることで次年度の計画に生かせる構成とし、小中連携のPDCAサイクルを確立した。	【課題】 共通実践事項の取組の一層の具体化及び適切な評価指標の設定方法について共有する必要がある。 【今後の予定・方向性】 指導主事訪問や学力定着指導員訪問時等に共通実践事項の進捗状況の確認及び指導・助言を行う。年に2回の小中連携教育研修会にて、好事例の横展開を図る。	9	C

数学・英語・社会・理科の担当教員が週5時間以上」
・数学・英語・社会・理科の担当教員が週3時間以上」

「用または児童用タブレット端末を用いての実施が年間2時間以上」、「中学校:技術の担当教員が担当する全学級で、情報の科目において

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

【点検・評価委員による評価】												
全体評価		今後の期待・要望										
【助言・今後の期待への反映率】 評価（助言）を積極的に反映した。（反映率70％程度） 成果指標について目標値を下回った課題の分析がなされているものの、一部結果が伴っていない面も見られた。 活動指標については先進自治体への教員派遣の再開などは評価できるものの、ICT関係への取組に課題が見られた。 【目標・成果の達成状況】 いくつかの取組により戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 全体的な傾向としては授業力向上・授業改善の取組により概ね成果が上がっているが、特に中学校について課題が見られる。 成果指標1について、小学校では98％程度で推移し概ね達成していると考ええる。一方、中学校では目標値を下回るとともに、わずかでありますが達成率が低下傾向にあり課題が見られる。 成果指標2について、小学校では国の平均正答率との差（目標値）を高め設定していることからわずかに100％を下回っているものの、いずれも国の平均正答率を上回っておりほぼ達成していると考ええる。 一方、中学校では国語、数学ともに国の平均正答率を下回り、特に数学の実績値は国の平均正答率を大きく下回っている。 成果指標3について、中学校は目標値を下回ったものの前年度との比較では上回っていることから概ね達成していると考ええる。 成果指標4について、小・中学校ともに目標値を下回ったが、特に中学校の実績値について課題が見られる。 活動指標については、活動指標3、4、6、7が目標値を大きく下回ってしまった。 活動指標3は目標値及び昨年度の実績値との比較で、大きく下回ってしまった。アドバイザーの人員減が原因とのことで、速やかな対応が難しいと思われる。英語教育支援方策の見直しを含めた検討が望まれる。 活動指標6、7はタブレット端末を使用状況で、教員用・児童生徒用ともに目標値を大きく下回っている。使用状況について学校間や教員間の差が大きいと分析されており、ICTスキルの向上に向けた研修の充実が求められる。 【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。 教員の授業力の向上のための授業、魅力ある授業の実現に向けた取組として、教科指導専門員の巡回、教員研修、先進自治体への教員派遣、ICT教育の推進など多様な取組を位置付けていることは戦略的な方向性に合致するものと考ええる。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 いくつかの取組により概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。 各取組は戦略の方向性に合致しているものの、目標値を大きく下回った活動指標がいくつか見られた。特にタブレット端末は課題が大きく、有効な活用に向けた研修の充実など一層の取組が必要である。		成果指標において中学校での課題が明らかになった。目標値を下回った原因を分析しつつ活動指標にある多様な取組を推進してほしい。 成果指標2の目標値について年度ごとに変更しているが、数年間は固定した目標値を設定した上で、実績値との比較及びその原因等を検討することが考えられる。 活動指標6、7のタブレット端末の週当たりの使用時間数については、目標値を達成しているか否かはもとより、学校・教員ごとの使用時間数を把握した上での具体的な対応が必要である。										
全体評価レーダーチャート												
<table><tr><th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th><th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th><th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th><th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th></tr><tr><td>5</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td></tr></table>					【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	4	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か									
5	4	5	4									

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	教育政策課 教育指導課 学力定着推進課 生活支援推進課
戦略2	個に応じた学習指導・学習機会の充実		

戦略の達成度を測る成果指標

		No.	所属	指標名	単位			H30		R2		R3		R4		R5		R6	
成果	1		学力定着 推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」における小・中学校の区全体の通過率	%	国	算・数	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
								実績値	78.4	63.1	-	-	83.1	68.1	83.1	68	83.7	70.2	
								目標値	-	-	-	-	80	70	80	70	80	70	
								達成率	-	-	-	-	104%	97%	104%	97%	105%	100%	-
								実績値	79.1	59.4	-	-	84.9	68.6	84.3	67.4	83.8	67.6	
								目標値	-	-	-	-	80	70	80	70	80	70	
								達成率	-	-	-	-	106%	98%	105%	96%	105%	97%	-
							英	実績値		52.4		-		65.4		62.6		63.1	
								目標値		-		-		70		70		70	
								達成率		-		-		93%		89%		90%	-
成果	2		学力定着 推進課	英語チャレンジ講座の事後テスト結果が事前テスト結果を上回った生徒の割合（令和4年度より指標名変更）	%	実績値		83.5		97.8		93.5		97		96.3			
						目標値		-		90		90		90		90		90	
						達成率		-		109%		104%		108%		107%		-	
成果	3		学力定着 推進課	足立はばたき塾を受講し、第一志望の高校に進学した生徒の割合	%	実績値		67.9		78		67.9		82.4		75.9			
						目標値		-		80		80		80		80		80	
						達成率		-		98%		85%		103%		95%		-	
成果	4		生活支援 推進課	居場所を兼ねた学習支援に利用登録のある中学3年生の高校進学率（令和4年度新規追加指標）	%	実績値		-		-		-		100		99			
						目標値		-		-		-		-		100		100	
						達成率		-		-		-		-		99%		-	

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

めざす方向性	各種の学力調査結果を分析し、児童・生徒の学力実態を踏まえ、データに基づいた適切な学習指導を継続して行います。放課後や長期休業期間を活用した補習体制の充実や、学習支援等の人材配置、民間教育事業者の活用により、つまずきの解消による学力未定着層の底上げや、学力上位層のさらなる学力向上を図ります。 また、全ての子どもたちが家庭環境や経済状況に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし、夢に挑戦できるよう、学びの環境整備や居場所の確保等を図ります。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
「足立区学力定着に関する総合調査」における小・中学校の区全体の通過率は、小学生は2教科とも目標値を上回った。中学生の国語(前年度比+2.2ポイント)は目標値を上回ったものの、数学(前年比+0.2ポイント)と英語(前年比+0.5ポイント)は目標値を下回った。	【課題】 小学校段階で一定の学力の定着が見られる一方、中学校段階で伸び悩んでいる傾向が続いている。 また、目標値を上回っていても正答率自体が低い教科、学年もあり、さらに学校を個別に見ると、学校間の格差が生じている。 【今後の予定・方向性】 上記課題解決のため、学習指導要領で求められる育成すべき資質・能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に「学びに向かう力(主体的に学習に取り組む態度)」を加えた資質・能力のバランスの良い育成を目指し、「足立スタンダード」に基づいた授業の実践や個に応じた学習指導を推進していく。 また、通過率が一定の水準以下の学校には重点的に支援を行い、底上げを図る。
令和2年度以降、毎年目標値を上回ることが出来ている。 日本人講師とネイティブ講師によるレッスンを織り交ぜながら、中学1年生の学習単元を総復習することで、着実につまずきの早期解消、基礎学力の定着に繋がっている。	【課題】 令和2年度以降目標値を達成できている中で、事業の効果をさらに高めるため、本事業が対象とする「英語に苦手意識があるが学習意欲の高い生徒」に、より効果的に事業が届くよう見直していく必要がある。 【今後の予定・方向性】 継続して成果が現れている事業であるが、参加生徒ごとの意欲に差が見受けられる。より参加生徒に事業の効果が届くように有効な方策を検討していく。
令和5年度は、第一志望を都立難関高校とし受験する塾生が前年度より増加した。その中には、チャレンジ受験という位置付けで第一志望の都立難関高校を受験し、結果的に実力相当の第二志望以下の高校に進学する塾生も見られた。 チャレンジ受験が増えた背景として、令和5年度から高校授業料無償化が実施されたことにより、「仮に都立が不合格でも私立がある」という意識の変化もあると考えられる。 また、同背景から、全体として都立難関高校の倍率が前年度より上昇したことも目標値を下回った原因の一つと考えられる。	【課題】 毎年、塾生の学力層や志望校の傾向が異なる中で、その特性やニーズを踏まえた柔軟な対応(講座の進め方や進路情報の提供等)が必要となる。 【今後の予定・方向性】 塾生が不安なく、高いモチベーションをもって第一志望校にチャレンジし、目標を達成できるよう、講座の進め方や進路情報の提供・相談等について、委託事業者との連携を密にしながら対応していく。
令和5年度は中学3年生102名のうち、101名が高校等へ進学した(1名は親族経営の会社に就職)。 生徒一人ひとりの状況に寄り添い、学習支援だけでなく自己肯定感を高めるための体験活動や、日常生活のサポートを丁寧に行ったことで、進路実現に結び付いたと分析する。	【課題】 高校生の登録生徒のうち、毎年数名の中退者が出ている。 (令和5年度:128名中5名、うち4名が高校1年生) 【今後の予定・方向性】 高校中退防止や卒業後の自立に向けた支援を行うため、学業不振や学校不適応、家庭状況の変化といった中退リスクの早期把握、生徒への利用の促しや利用頻度に応じた電話連絡による聴き取りを丁寧に行い、都立高校との連携強化にも取り組む。

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	学力定着推進課	そだち指導の充足率(そだち指導員の年間指導時間数/そだち指導対象児童に必要な指導時間数)(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	101	100	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	101%	100%	-
活動2	学力定着推進課	MIMの指導回数 ※ 学校数 平成30年度 69校 令和6年度 67校	回	実績値	3,450	3,105	3,450	3,400	3,350	
				目標値	-	3,450	3,450	3,400	3,350	3,350
				達成率	-	90%	100%	100%	100%	-
活動3	教育政策課	・ 学習支援ボランティアの登録者数<人> ・ 活動件数<回> ・ 充足割合(活動件数/活動予定数(年度当初の調査に対して回答した件数))<%>	人	実績値	463	267	347	407	362	
				目標値	-	452	464	476	488	500
				達成率	-	59%	75%	86%	74%	-
			回	実績値	8,404	5,153	6,090	6,344	5,995	
				目標値	-	7,800	8,100	8,400	8,700	9,000
				達成率	-	66%	75%	76%	69%	-
			%	実績値	-	-	-	71	74	
				目標値	-	-	-	80	90	100
				達成率	-	-	-	89%	82%	-
活動4	教育指導課	学習支援員配置の小学校の割合	%	実績値	100	96	97	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	96%	97%	100%	100%	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
そだち指導員と学級担任が連携し、組織的に対象者を選定し、計画通り実施した結果、目標値を超えることができた。 また、卒業アンケート結果から成果として、そだち指導に関する対象児童の満足度が99.7%と高く、つまずきの解消を実感できている児童の割合も98.7%と高いことが挙げられる。 令和5年度は、学校の統廃合やそだち指導員の中途採用があったことから、令和4年度と比較して卒業児童が31名(令和4年度:2,616名→令和5年度:2,585名)減少している。	【課題】 児童の学習意欲の向上に対し、そだち指導員と担任が共通意識をもって取り組む必要がある。また、抜き出した授業の学習内容の保障とつまずき解消の双方への対応を図るには、そだち指導員の高度な指導技術が求められるが、人材確保が難しい。 【今後の予定・方向性】 学力定着指導員の巡回や研修を通して、児童のつまずきの分析や指導方法の改善を支援し、指導力を高めていく。また、新規そだち指導員に対して支援を充実させるなどして、そだち指導員の指導力の平準化を図る。	1	B
指導主事やMIM指導の教科指導専門員による巡回指導や学校訪問、MIM指導相談会の実施に加え、MIM通信や参考動画の配信等、様々な機会を捉えて指導することで、計画通り実施することができた。	【課題】 研修会での講師の指導や教科指導専門員による巡回指導に依存することなく、学校が校内で研修会を行う等の自走可能な形でMIMの理解と普及を広めていくことが求められる。 【今後の予定・方向性】 区内でMIM指導に特に積極的な教員をMIMのコーディネーター的な役割として育成し、区内教員の中で自走可能な形となるような素地を作っていく。	2	B
いずれも目標値を下回った。コロナ禍以降、年度毎に登録者数、活動件数とも回復基調にあったが、減少に転じた。 教員志望者が減少傾向にあることが大きく起因していると考えられる。しかしながら、一定の実績は出ていることから、各学校における学習に遅れのある児童・生徒への学習支援などの授業補助や放課後補習支援による基礎学力定着や教員の負担軽減に寄与したと考えられ、一定程度のニーズはあると評価する。	【課題】 教員志望者が減少傾向にあり、人材確保が困難となりつつあるが、潜在的な活動者を発掘していく必要がある。 【今後の予定・方向性】 令和5年度末から令和6年度当初にかけて、PR用のチラシ及びポスターを作成した。 これまでに事業実績のある大学へのポスター送付の他、区内大学と連携して、直接事業のPRを行うなど、まずは大学生のボランティアの確保に努めていく。 また、令和6年度より謝礼額や支払方法を見直したため、これの効果を見極めていく。	3	C-
ホームページ等を通して学習支援員の募集を継続して行い、全校に配置できるよう努めたことで、目標を達成することができた。	【課題】 年度途中退職者による欠員が発生している。 【今後の予定・方向性】 区ホームページや東京都教育支援機構(TEPRO)の活用を継続して行い、必要な人材を確保していく。	4	B

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動5	学力定着推進課	各小学校におけるサマースクールの実施日数	日	実績値	-	-	-	9.9	10	
				目標値	-	-	-	10	10	10
				達成率	-	-	-	99%	100%	-
活動6	学力定着推進課	英語チャレンジ講座実施延べ時間数 (対象生徒数525人) (令和4年度変更指標)	時間	実績値	-	-	-	4,807.5	5,048	
				目標値	-	-	-	7,000	5,600	5,600
				達成率	-	-	-	69%	90%	-
活動7	学力定着推進課	英語マスター講座実施延べ時間数 (対象生徒数: 令和5年度まで90人、 令和6年度から120人) (令和4年度変更指標)	時間	実績値	-	-	-	4,258	4,726	
				目標値	-	-	-	5,400	5,400	6,840
				達成率	-	-	-	79%	88%	-
活動8	学力定着推進課	AIドリルで学習状況を把握し、児童・生徒のつまずきに応じて、必要な手立てを講じている教員の割合 (令和5年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	-	69.5	
				目標値	-	-	-	-	70	70
				達成率	-	-	-	-	99%	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
全ての小学校において計画通り実施することが出来た。 また、令和5年度から小学校第5・6学年を対象に、AIドリル型サマースクールを実施した。AIドリルの特徴を活かすことで、効率的・効果的に個に応じた指導を推進することができた。また、合わせて教員の負担感の解消を図った。	【課題】 引き続き、教員の負担感軽減に取り組んでいく必要がある。また、AIドリル活用型サマースクールについては、学習の成果を検証する必要がある。 【今後の予定・方向性】 つまずき解消を図るため、引き続き、夏季休業期間中の学習支援を10日間程度実施していく。 また、AIドリル活用型サマースクールについては事前・事後テストを実施し、学習の成果を検証する。	5	B
令和5年度から、参加生徒の目標値を1校あたり12名と変更したが(令和4年度までは15名)、各校平均11名の参加に留まったことに加え、特に定期考査前の欠席が多く見られたことから目標値を下回る結果となった。学校規模による参加人数や生徒の出席率に差が生じており、実績値を引き下げる要因となっている。	【課題】 中学1年生の早い段階における苦手解消を目的とした事業であり、学校規模差による対象生徒数や、生徒個人ごとの参加意欲に乖離が生じている。 【今後の予定・方向性】 受講者の事前・事後テストの結果から、一定の成果があるものと受け止めており、生徒の参加意欲や学習意欲をより引き出すよう実施方法を再検討していく。	6	C
講座欠席と年度途中の受講辞退(4名)により、目標を下回った。 今期はインフルエンザの流行による学級閉鎖が多くあったが、学級閉鎖数と比較してもその影響は少なく、昨年度の実績を上回ることができた。 欠席理由は体調不良が半数程度を占めており、また、家庭の都合による欠席も多かった。時期で見ると、夏季休業期間中には塾や家庭の都合、11月には定期考査対策のため、1月には体調不良や受験勉強という理由による欠席が多かった。	【課題】 受講にあたり全ての回に参加することを約束しているが、体調不良以外の理由による欠席がある。 【今後の予定・方向性】 欠席がちな生徒には講座前の面談や声掛けなどでフォローしていく。講座になじめないなどの理由による生徒は特に注視し、全ての生徒が講座修了することを目指す。 申込者急増により、令和6年度から定員を30名増員し、定員を120人とし実施する。	7	C-
中学校に比べ小学校で大きく目標値を上回り、実績値は概ね目標どおりとなった(小学校:80.4%、中学校:42.4%)。 つまずきにに応じた手立てについて、授業や補習、個別指導など自校の状況に応じて、様々な手立てを講じている。	【課題】 依然として学校間・教員間で活用状況に格差がみられる。また教員がAIドリルを使用することや、児童・生徒が問題数をこなすこと自体が目的となってしまうケースが見受けられる。 【今後の予定・方向性】 各校で選任されている活用リーダーによる活用啓発や個別の学校訪問支援により学校間・教員間の活用格差を解消しつつ、併せて教員向けの研修会や好事例の横展開を通じて、児童・生徒の課題に応じたAIドリルの効果的な活用を促進していく。また、導入による効果の検証を手法も含めて検討し実施していく。	8	C

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動9	学力定着推進課	中1夏季勉強合宿参加者のうち、事後テストが事前テストの結果を上回った生徒の割合 (令和5年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	-	84.4	
				目標値	-	-	-	-	90	90
				達成率	-	-	-	-	94%	-
活動10	学力定着推進課	足立はばたき塾の年間出席率 (令和5年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	-	85.2	
				目標値	-	-	-	-	87	88
				達成率	-	-	-	-	98%	-
活動11	生活支援推進課	居場所を兼ねた学習支援の年間登録数【平成30年度 7箇所、令和4年度以降 6箇所】	人	実績値	308	325	345	356	361	
				目標値	-	330	330	330	360	370
				達成率	-	98%	105%	108%	100%	-
活動12	生活支援推進課	生活保護世帯の小・中学生のうち、塾代支援を利用して通塾している小学1年生～中学2年生の割合	%	実績値	22.6	17.8	19.3	18	18.2	
				目標値	-	23.8	23.8	25.3	27.7	30
				達成率	-	75%	81%	71%	66%	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和5年度から、通所型(モデル)を開始した。宿泊型は各校数名ずつが対象であったところ、通所型では区調査40%未満の生徒全員を対象とすることが可能となり、より多くの生徒を支援することができた。一方で、不登校傾向の生徒等も含まれるため、目標値には届かなかったと考えられる。なお、宿泊型のみでの実績値は91.7%となった。	【課題】 宿泊型・通所型(モデル)ともにマンツーマン指導、もしくはそれに近い形を徹底しているため、教職員の負担が大きい。 【今後の予定・方向性】 引き続き宿泊型・通所型(モデル)を並行実施することで、効果の比較検証を行い、教職員の負担軽減も加味して令和7年度以降の実施方法について検討していく。	9	C
足立はばたき塾は難関高校への進学を目指す生徒向けの事業であり、毎週課している宿題の量が多く、授業の難易度も高い。塾生の中には学習ペースに追いつけない、個別指導のようなきめ細かいフォローを希望するといった理由で欠席が続き、最終的に退塾するというミスマッチが一定数ある。 また、体調不良や学校行事への参加といったやむを得ない事情以外の理由(家庭の事情・進学先が決定し、残りの授業を欠席する)で欠席をする塾生も散見される。目標に対しては概ね達成であるが、上記のような状況が原因で目標値を下回った。	【課題】 やむを得ない事情以外での理由で授業を欠席する塾生を減らす必要がある。 【今後の予定・方向性】 委託事業者との連携を密にし、欠席が続く塾生には学校を通じて聞き取りをする等のフォローを徹底していく。また、引き続き入塾の前段階である入塾説明会において、ミスマッチ解消のため、足立はばたき塾の趣旨や実施体制を入念に伝えていく。	10	C
中学校、スクールソーシャルワーカー、福祉事務所のケースワーカーへの事業周知および情報共有を通じた連携などにより、昨年度から5名増の361人(中学生233人、高校生等128人)となり、目標を達成した。その他の実績として、生徒の状況に応じた利用促進により、コロナ禍以前との比較で利用率が向上している(令和5年度は1日あたり17.5人が来所)。	【課題】 登録者数は順調に推移しているが、不登校傾向があったり、家庭に課題がある等の理由で利用定着に至らない生徒が一定数存在する。 【今後の予定・方向性】 福祉・教育部門の関係機関との連携を通じた利用促進を維持するとともに、課題を抱えている生徒や世帯に対しては居場所サポート相談員が中心となり、家庭訪問等による利用の促し、生活相談、適切なサービスへのつなぎを行う。	11	B
夏季休暇期間中などに保護者への制度説明を重点的に行っているものの、実績値はほぼ横ばいとなっている。 なお、令和5年度は学習支援サービスをまとめたリーフレットを作成・配布したほか、塾代支援の対象を通信教育にも拡大した。	【課題】 塾代支援の利用割合を上げるだけでなく、既存制度を有効に使い、子どもの学習意欲や自己肯定感をいかに高めていけるかが課題となっている。 【今後の予定・方向性】 子どもの自立をより支援する目的で、所内職員PTとして昨年度に設置した「有子部会」にて、利用率向上に向けた施策を令和6年6月から協議する。具体的には、季節講習、通信教育の利用促進や、子どもがいる世帯のサポートに特化した有子世帯係を各福祉課に展開し、保護者や子どもへのアプローチの向上を目指す。	12	D

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
【助言・今後の期待への反映率】 評価(助言)を積極的に反映した。(反映率70%程度) 成果指標・活動指標について目標値を下回った課題の分析がなされているものの、一部結果が伴っていない面も見られた。活動指標の指標について取組の趣旨が反映できる指標へと変更した取組は評価できる。 【目標・成果の達成状況】 優れた取組がいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。 成果指標の多くは目標値をほぼ達成している。 成果指標1について小学校では目標値を達成している。中学校では数学と英語が目標値を達成していないものの達成率は9割を超え昨年度に比べて上昇している。 成果指標3、4についても達成率95%、99%で、概ね達成していると考ええる。 活動指標3について、学習支援ボランティアの登録者数、活動件数、充足割合がいずれも目標値を下回った。教員志望者の減少を原因と分析しており、大学との連携を深めるなど人材の発掘に取り組むことが求められる。 活動指標6、7について、目標値までわずかに達成していないが、昨年度に比べて実績値が上昇しており、着実に取組を進めて欲しい。 活動指標12について、実績値はほぼ横ばいながら、目標値を大きく下回った。関係課と連携しながら取組の理解を進めてほしい。 【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】 各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。 学力未定着層から学力上位層にいたるまで子ども一人ひとりに応じた指導の充実に向け、そだち指導員の配置、MIMの指導、学習支援員の配置、サマースクール、足立はばたき塾など子どもの多様な実態に対応した取組を実施しており、戦略の方向性に合致するものと考ええる。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 いくつかの取組により概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。 各取組は戦略の方向性に合致しているものの、いくつかの活動指標において目標値を下回った指標が見られた。 目標値を下回った原因を分析し取り組みを進めて欲しい。	成果指標について中学校にやや課題が見られるものの、概ね目標値を達成している。 あとわずかで目標値を達成する活動指標が多く、目標値を下回った原因や課題を分析し取組を推進してほしい。								
全体評価レーダーチャート									
<table><thead><tr><th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th><th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th><th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th><th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td></tr></tbody></table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	5	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	5	5	4						

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略3 就学前教育の推進

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	子ども施設指導・支援課
戦略3	就学前教育の推進		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果1	子ども施設指導・支援課	基本的生活習慣(※1)が身についている小学1年生の割合	%	実績値	90.6	88.4	87	87.9	89.8	
				目標値	-	90	90	90	90	90
				達成率	-	98%	97%	98%	100%	-
成果2	子ども施設指導・支援課	教育・保育力向上研修(集合)の受講者アンケート回答者の内、「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園教諭等) (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	95.6	95.9	
				目標値	-	-	-	90	90	90
				達成率	-	-	-	106%	107%	-
成果3	子ども施設指導・支援課	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた教育・保育施設の割合	%	実績値	100	100	100	100	99	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	99%	-
成果4	子ども施設指導・支援課	接続期教育研修の受講者アンケート回答者の内、「幼保小連携の重要性を理解できた」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園・小学校教諭等) (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	94.7	92.5	
				目標値	-	-	-	90	90	90
				達成率	-	-	-	105%	103%	-

※1 基本的生活習慣の内容…挨拶や返事、姿勢良く座る、静かに話を聞く の3項目

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略3 就学前教育の推進

めざす方向性	人間形成の基礎をつくる重要な乳幼児期において、基本的な生活習慣や学びの芽を育む取り組みを推進するとともに、教育内容を豊かにすることを通して子どもの学びの構えを育み、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を図ります。また、教育・保育施設の運営が適正になされるよう、計画的に指導検査や実地調査、巡回訪問、研修を実施し、教育・保育の質の維持・向上に取り組めます。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
4月に入学した小学校1年生の児童を対象に行ったアンケートでは、基本的な生活習慣が身につけている1年生の割合は89.8%であり、概ね目標どおりであった。小学校教員と就学前施設の保育者を対象に行う接続期教育研修会に加え、保育者に対して教育・保育力向上研修を31回実施し、幼保小連携活動の推進及び教育・保育内容の質向上を図った結果、子どもの学ぶ意欲が高まり、基本的な生活習慣の獲得につながった。	【課題】 幼保小連携活動を行うことで、子どもの学びが深まり、遊びや生活に活かされた実践事例の報告があった。活動を行うことがねらいではなく、子どもの実態に合った活動を小学校教員と就学前施設の保育者がともに検討し、子どもたちの体験からどのような姿につながっているかを共有していくことが求められる。 【今後の予定・方向性】 子どもたちが幼児教育から小学校教育への滑らかな接続や、必要な体験の実現に向け、接続期教育研修や教育・保育力向上研修を実施することで互いの教育・保育の理解を深化させる。 また「足立区小学校1年生アンケート」では、教育環境の変化に対応しながら質問項目の検討を行い、子どもたちの育ちにつなげていく。
教育・保育力向上研修を29回実施し、受講者に「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答した割合が95.9%で目標を達成した。令和4年度も目標値を達成しており、受講者の声を聴きながら、研修内容を活かしていった結果、現場で活用していきたいという声につながった。	【課題】 5歳児に対して行う体力測定(テニスボール投げ、立ち幅跳び)の結果は、全国平均を上回る園児の割合が46.7%と低い値となっている。教育・保育力向上研修において実施している運動あそび研修では、研修内容の活用が実際の運動あそびに結びついていないと考えられる。 【今後の予定・方向性】 運動あそびモデル事業を通して作成する指導案を基に、研修を実施していく。研修を通して子どもが自発的に身体を動かす機会を引き出す援助などを周知していく。
令和4年度に指導検査を実施した113施設中、85施設に対し「文書指摘」または「口頭指導」を発した。これら施設に対し令和5年度の巡回訪問等で改善確認を行ったが、1施設が書類の修正を継続中のため、目標を下回った。	【課題】 「文書指摘」等については、特定の項目での指摘が繰り返されている傾向がある。 【今後の予定・方向性】 指導検査において、同様の指摘を受けないよう、園長会等での全体会で検査前の事前説明及び検査後の結果報告を引き続き行い、各施設の意識を高めていく。
接続期教育研修を2回実施し、あだち幼保小接続期カリキュラムを各就学前施設に浸透させるため、研修や連携活動を通して、活用を促した。終了後に受講者アンケートを実施したところ、「幼保小連携の重要性を理解できた」と回答した割合は92.5%で、目標を達成できた。ブロック会議や接続期教育研修など、年間を通じて幼保小連携活動に取り組んだ結果、保育者と教員の相互啓発が進み、理解が深まった。	【課題】 参加施設の割合として、私立幼稚園が低くなっている。 【今後の予定・方向性】 幼保小連携活動として、私立幼稚園の参加率向上が必要である。参加を促すため、各ブロック会議を通じて、参加協力を呼びかけていく。

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略3 就学前教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	子ども施設指導・支援課	幼児教育研修のうち、教育・保育力向上研修(集合)への参加職員数(保育士、幼稚園教諭等)(令和元年度より実施)目標値=参加職員数[※研修定員数(令和6年度:3,000人)の7割程度を想定]	人	実績値	-	2,324	2,318	2,840	2,097	
				目標値	-	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
				達成率	-	111%	110%	135%	100%	-
活動2	子ども施設指導・支援課	巡回訪問実施延べ回数(令和5年度変更指標)	回	実績値	-	-	-	-	665	
				目標値	-	-	-	-	488	577
				達成率	-	-	-	-	136%	-
活動3	子ども施設指導・支援課	「足立区教育・保育の質ガイドライン」を活用した保育実践をしている施設の割合	%	実績値	48.1	82	85	85	88	
				目標値	-	54.3	85	87	87	85
				達成率	-	151%	100%	98%	101%	-
活動4	子ども施設指導・支援課	5歳児が在籍する就学前施設の内、幼保小連携活動の中であだち幼保小接続期カリキュラムを活用している園の割合【令和4年度より指標変更】	%	実績値	-	-	68.9	83.5	90.3	
				目標値	-	-	90	90	90	90
				達成率	-	-	77%	93%	100%	-
活動5	子ども施設指導・支援課	小学校との交流活動を実施した教育・保育施設の割合	%	実績値	86	85.8	72.6	92	94	
				目標値	-	86.7	87.6	87.6	90	90
				達成率	-	99%	83%	105%	104%	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略3 就学前教育の推進

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和5年度は、教育・保育力向上研修を29回実施した。研修参加者は研修参加目標の2,100人に対して、3人下回る2,097人(区立園999人、私立園1,098人)の参加となったが、概ね目標どおりだった。	【課題】 教育・保育力向上研修の1つである運動あそび研修の参加人数は、他の研修(人権研修や年齢別担任研修等)より少ない。運動あそびとは、何かができることを目的とするのではなく、子どもが様々なことに意欲を持って挑戦する力を育むために、保育者が援助したり、環境を準備したりする基本的なことを伝える必要がある。 【今後の予定・方向性】 運動あそびモデル事業を通して作成する指導案を基に、運動あそび研修を実施していく。研修を通して子どもが自発的に身体を動かす機会を引き出す援助などを周知していく。	1	B
目標値は年度当初の計画数だが、計画通りに巡回訪問を進めることができた。また、事件・事故での実地調査のため緊急な訪問等があり、目標値を大きく上回る訪問回数となった。	【課題】 巡回訪問対象の教育・保育施設が増加しており、また、事故等での緊急対応の訪問も増えているため、現体制での実施が厳しい状況にある。 【今後の予定・方向性】 人員配置や実施スケジュール等を考慮しながら、巡回訪問を通じ丁寧な寄り添い支援を継続していく。	2	B ⁺
前年度ダウンした私立認可保育所での活用率が64%から79.6%にアップしたこともあり、目標値を達成した。一方で小規模施設や幼稚園・こども園では前年度よりダウンしている等、施設種別での活用にはばらつきが見られた。	【課題】 全体での活用率は上昇したが、教育・保育の実践につながっていないこと、研修での学びが園全体で共有されていないことが課題となっている。 【今後の予定・方向性】 巡回訪問でチェックシートを活用しながら教育・保育の実践に繋げていく。研修では施設長等にも対象を広げ、園全体での共有を図っていく。	3	B
令和5年度は、幼保小連携ブロック担当者会議を2回実施した。また、接続期教育研修も2回実施した。このため、子ども同士や職員同士の連携活動が密に行われ、あだち幼保小接続期カリキュラムの活用につながり、目標を達成することができた。	【課題】 接続期教育研修の参加施設割合のうち、私立幼稚園の参加が少ない。 【今後の予定・方向性】 各ブロックの幼保小連携ブロック会議で私立幼稚園の参加を呼びかけていく。	4	B
令和5年度は、幼保小連携ブロック会議が全13ブロックで行われ、積極的に保育者と教員が連携をとり交流活動につながった。そのため、目標を達成することができた。	【課題】 交流活動の内容や人数等において、調整が難しい連携校がある。 【今後の予定・方向性】 幼保小連携ブロック会議で、交流活動のねらいを周知し、子ども達に必要な体験活動の実施につなげていく。	5	B

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
戦略3 就学前教育の推進

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
【助言・今後の期待への反映率】 改善しようとする意欲が感じられる。 【目標・成果の達成状況】 成果指標の全ての項目(1～4)、および活動指標の全ての項目(1～5)は、目標値を達成していると判断できる。 【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 ＜基本的な生活習慣や学びの芽を育む＞ 成果指標1は目標値を達成しており、取り組みの方向性としても評価できる。また、「子どもたちの体験からどのような姿につながっていくのか」を保育者と小学校教員が共有することを課題にあげている視点も重要であると考え。昨年度も指摘した内容であるが、「成果指標1にダイレクトに関連する活動指標があると、「めざす方向性」がより一層明確に伝わるのではないかなと思われる。 ＜教育内容の向上＞ 成果指標2、および活動指標1、3は、教育内容の向上を目指すために、研修会の受講やガイドラインの活用に着目した指標である。成果指標、活動指標共に、目標を達成しており、評価できる。今後は、参加数や活用率だけでなく、研修会参加後の園内での活かされ方やガイドライン活用の仕方等に目を向け、教育内容の向上にガイドライン等がどのように寄与することができるのか、改めて検討することも必要である。 ＜幼児教育から小学校教育への移行＞ 成果指標4、および活動指標4、5は、幼児教育から小学校教育に滑らかな移行を目指すために、研修会の受講や「幼保小接続期カリキュラム」の活用に着目した指標である。成果指標4は、幼保小連携の重要性への理解度の指標であり、方向性としては評価できる。成果指標1の課題に「子どもたちの体験からどのような姿につながっていくのか」という視点をあげていることとも関連づけて、子どもが滑らかに移行できているかどうかの実態を成果指標にすることも重要ではないだろうか。また、成果指標4および活動指標4の課題にあげられている、研修等への幼稚園の参加者が少ないことへの改善も重要である。 ＜教育・保育施設の適正な運営＞ 成果指標3、および活動指標2は、教育・保育施設の運営が適正になされることを目指した実地調査や巡回訪問の実施や、指導への改善に着目した指標である。そのため、達成率が100%となるのはある意味当然の結果ともいえる。また、活動指標2が136%になっているのは、課題がある園が多く、巡回訪問が増えている結果であると考えられる。この結果を肯定的な評価として捉えるかどうかも含め、適正な運営を目指すための指標として着目する視点を工夫する必要があると考える。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 基本的な生活習慣や学びの芽を育むこと、教育内容の向上、幼児教育から小学校教育への移行について、実態把握を行なう努力をし、それを踏まえて課題を捉えたり、今後の計画に取り組んでおり、一定の評価ができる。教育・保育施設の適正は運営に関しては、今後、より「子どもの最善の利益」を重視した取り組み方が必要になると考えられる。	＜基本的な生活習慣や学びの芽を育む＞ 成果指標に、「学ぶ意欲がある」等の幼児期に育つことが期待される資質・能力が明確に伝わる指標を加えることも必要だと考える。 ＜教育内容の向上＞ 研修会参加後の園内での活かされ方やガイドライン活用の仕方等に目を向け、好事例や公開保育の情報を保育関係者のみならず、保護者や地域にも幅広く発信する多様な活用方法を提案していくことも必要だと考える。 ＜幼児教育から小学校教育への移行＞ 子どもが保育園や幼稚園から小学校に滑らかに移行できているかどうか、「生活習慣にかかわる3項目」だけでなく、より子どもの実態を把握できる成果指標を開発することも必要ではないだろうか。 ＜教育・保育施設の適正な運営＞ 指導検査で指摘を受けた施設は、施設長等が区が提供している研修の受講を義務化することも必要だと考える。								
全体評価レーダーチャート									
<table><thead><tr><th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th><th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th><th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th><th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td></tr></tbody></table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	6	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	6	5	4						

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援

戦略1	多様な体験活動の提供とその充実・・・・・・・・	47
戦略2	家庭教育支援の充実・・・・・・・・	57
戦略3	社会的自立に必要な力の育成・支援・・・・・・・・	65

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	学力定着推進課 教育指導課 学校支援課 学務課 青少年課
戦略1	多様な体験活動の提供とその充実		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
成果1	1	青少年課	大学生体験教室・ものづくり体験教室に参加してアンケートに回答した小・中学生のうち、「今回の体験をとおして、これからも新しいことを知ったりチャレンジしたいと思った」と回答した割合（令和2年度より実施）	%	実績値	-	90	87	89	81							
					目標値	-	-	90	90	90	90						
					達成率	-	-	97%	99%	90%	-						
成果2	2	青少年課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学5年生が「地域の行事に参加している」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	56.3	-	53.4	43.3	47.4							
					目標値	-	57.1	-	59	60	61						
					達成率	-	-	-	73%	79%	-						
成果3	3	青少年課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的な回答をした割合（※施策1の再掲）	%		小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3		
					実績値	93	92.3	-	-	93.6	93.2	94.1	93.3	95.4	93.6		
					目標値	-	-	93.3	92.8	93.5	93	94	93.6	94.5	94	95	95
				達成率	-	-	-	-	100%	100%	100%	100%	101%	100%	-	-	

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	学務課	自然教室における各学校の体験活動数の合計（野菜の収穫、日光彫、田植え、稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等）（※施策1の再掲）	回	実績値	905	205	525	1,072	928	
				目標値	-	905	905	905	905	905
				達成率	-	23%	58%	118%	103%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

めざす方向性	生命や自然を大切にす心や他を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるため、学校において、自然体験活動や集団宿泊体験、伝統文化体験、奉仕体験活動といった多様な体験活動機会の充実に努めます。 また、子ども・若者が育つ地域環境の整備に向け、大学や青少年関係団体・関係者等との連携や協働を進めるとともに、団体活動の支援・育成に取り組んでいきます。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
各大学の特色を活かした講座を開催し、すべての講座で大学生と児童生徒と一緒に参加者に大学の授業や雰囲気などの体験機会の提供を行ったことで、多くの分野の講座で高い水準の実績値を維持することができた。一方で、早期教育に関心が高まっている英語の分野の講座においては、参加者の4割が英語を習っていると回答があり、新しい体験に繋がりがなく、結果的に前年度より実績値が低くなり、全体的な目標値の達成には至らなかった。	【課題】 児童の経験の機会は多様化しており、児童の普段馴染みの少ない分野や内容も日々変化していることから、より児童のニーズを捉えた講座内容の検討が必要となっている。 【今後の予定・方向性】 参加者アンケート等をもとに、大学の特色を活かしながら児童・生徒のより興味・関心が高い分野での講座の実施を大学側と協議していく。
新型コロナウイルスが5類に移行され、地域のお祭りや運動会の開催数が増加したことに伴い、多くの地域で参加する機会が増えた結果、肯定的な回答をした割合も増加したと考えられる。	【課題】 地域行事に興味がない子どもたちに向けても、参加しやすい環境整備が求められている。 【今後の予定・方向性】 より多くの子どもたちが体験できるよう、体験プログラムの種類を増やすなど、多様な体験活動の場を提供していく。
家庭や地域と連携して、児童・生徒に対して様々な体験機会の提供を実施することができており、着実に子どもが社会と関わる力を育むための成長支援ができています。	【課題】 きっかけづくりを目的とした内容だけでなく、より専門性の高い内容の講座などの実施が求められている。 【今後の予定・方向性】 自己肯定感を高めるため、体験・交流活動の機会を増やすとともに、より一層内容の充実を図っていく。

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
体験活動数は、令和4年度を下回ったが目標値を達成することができた。下回った原因は、令和4年度に、中学校の魚沼自然教室を1・2年生が実施したが、令和5年度は、通常どおり1年生のみの実施となったためである。鋸南自然教室、魚沼自然教室では、環境政策課との協議により、豊かな自然を生かした環境学習プログラムを実施し、多くの学校から高評価を得られた。	【課題】 学校がプログラムを決定する仕組みのため、多様なプログラムを用意するとともに、多くの学校に参加してもらえるよう働きかけが必要である。 【今後の予定・方向性】 令和7～8年度、鋸南自然の家[※]の休館により国立施設を利用した自然教室を実施するため、新たな体験プログラムを検討する。	1	B

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動2	青少年課	青少年課の大学連携事業の全プログラムの提供数 (令和4年度目標値追記指標)	回	実績値	25	11	23	29	15	
				目標値	-	24	27	27	29	16
				達成率	-	47%	85%	107%	52%	-
			人	実績値	-	-	-	9,396	11,376	
				目標値	-	-	-	15,000	10,000	15,200
				達成率	-	-	-	63%	114%	-
活動3	学力定着推進課	大学と連携した留学生交流学习の実施校数	校	実績値	6	3	2	6	7	
				目標値	-	6	6	6	6	6
				達成率	-	50%	33%	100%	117%	-
活動4	青少年課	あだち子ども百人一首大会の参加率	%	実績値	99.1	0	0	97.9	66	
				目標値	-	99.3	100	100	100	100
				達成率	-	0%	0%	98%	66%	-
活動5	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合(※施策1の再掲)	%	実績値	100	0	2.9	45.7	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	3%	46%	100%	-
活動6	青少年課	放課後子ども教室で体験プログラムを実施した小学校の割合 (令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	44.1	61.2	
				目標値	-	-	-	58.8	59.7	67.1
				達成率	-	-	-	75%	103%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
前年度の結果を踏まえ、体験活動の講座数や体験活動時間を増やすなど、体験機会の拡充を図ったが、一方で担当教授の退任と後任者不在、申込がなかったことにより、予定していた講座の一部が実施できず、結果として目標値には至らなかった。	【課題】 担当する教授の専門性に応じた講座を実施していることから、担当教授の退任などにより、講座の継続が困難になる事例が発生している。 【今後の予定・方向性】 講座開始に向けたノウハウを蓄積していくことで担当教授の退任・変更などがあっても講座を継続できるよう、事業継続に関する体制づくりを大学と協議していく。	2	B
達成状況については、117%である。達成率上昇の要因として、他の英語教育推進事業と関連付け、より効果的な児童・生徒の英語力向上のための手段として積極的に学校へアプローチした結果であると考えられる。 その他実績としては、中学校留学生交流会実施後の生徒アンケート(5校)で、項目「世界のいろいろな国の人と交流するには英語が必要だと感じましたか」について、もともと高水準であった肯定的回答が96.0%(R4:94.5%)とさらに伸び、かつ高水準を維持するなど、英語を学ぶ意欲の向上に寄与することができた。	【課題】 ・ アンケート項目の肯定的回答「英語が必要だと感じましたか」96.0%に見合う「英語学習をさらに頑張りたい」89.5%の数値の向上 ・ 実施希望中学校と大学側の日程の調整、留学生の人数確保 【今後の予定・方向性】 ・ 留学生とのやり取りを中心とした交流となるよう計画段階から支援し、「英語が通じること」の成功体験の積み重ねを学習意欲の向上につなげる工夫を講じていく。 ・ 大学側の協力を得ながら各校と調整を行い、持続可能な取組としていく。	3	B
個人戦に加え、コロナ禍前に実施していた三人一組の団体戦を復活させることができた。そのため、前年度に比べ参加者数は、大幅に増加することができたが目標を達成することはできなかった。 【実績補足】 前年度(令和4年度) 定員144に対し、141人参加 今年度(令和5年度) 定員448に対し、296人参加	【課題】 コロナ禍による事業中止や縮小により、機運の停滞や認知度が停滞している 【今後の予定・方向性】 大会の参加を目標とするような機運の醸成を図っていく。また、リーフレットを広く配布するなど周知を強化していく。	4	D
令和5年度は、新型コロナウイルスの扱いが5類に移行されたため、全中学校が職場体験を実施することができた。	【課題】 中学校において、全校で職場体験を実施できているため、今後も引き続き学校への周知を行う。 【今後の予定・方向性】 令和6年度も引き続き、区内全中学校が職場体験を実施する予定である。足立区役所内でも受け入れが可能な所管の確認を行い、中学校に周知していく。	5	B
体験プログラムの実施については、新型コロナウイルス感染症による社会活動の制限が終了したことに伴い、実施校数が増え、目標を達成することができた。	【課題】 コロナ禍が終了したものの、依然として活動拡大に慎重であったり、スタッフ不足に悩む実行委員会もある。引き続き丁寧かつ適切な支援が必要になる。 【今後の予定・方向性】 支援にあたっては実行委員会の考え方を尊重しつつ、コロナ禍前の活動量を取り戻すべく、生涯学習振興公社による支援を継続していく。	6	B

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動7	青少年課	青少年問題協議会の開催回数	回	実績値	2	1	0	1	0	
				目標値	-	2	2	2	2	2
				達成率	-	50%	0%	50%	-	-
活動8	青少年課	青少年委員としてブロックで行う活動の回数	回	実績値	137	73	153	151	169	
				目標値	-	140	73	153	153	156
				達成率	-	52%	210%	99%	110%	-
活動9	青少年課	青少年対策地区委員会全体の主催事業数	事業	実績値	121	41	54	91	108	
				目標値	-	123	108	108	115	130
				達成率	-	33%	50%	84%	94%	-
活動10	青少年課	青少年対策地区委員会が実施する中学生以下の子ども参加事業数(令和4年度新規追加指標)	事業	実績値	-	-	-	50	82	
				目標値	-	-	-	94	95	96
				達成率	-	-	-	53%	86%	-
活動11	青少年課	ジュニアリーダークラブ(中学生・高校生)の構成員数	人	実績値	30	74	74	64	76	
				目標値	-	42	80	80	80	100
				達成率	-	178%	93%	80%	95%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
開催すべき具体的な審議事項が予定されていないことから、令和5年度以降、当面の期間は休会することとした。	【課題】 近年、青少年(子ども・若者)を取り巻く課題は、表に見えにくく複雑なものとなっているため、課題を細分化し、専門的な会議体で議論を進めていく必要がある。 【今後の予定・方向性】 「足立区審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づく見直しを行っていく。	7	E
新型コロナウイルスが5類に移行され、各地域活動が活性されたことに伴い回数が増加したと考えられる。また、各ブロックが開催する教育懇談会では、教育委員会幹部の出席や講演会が実施できるよう、ブロック活動のサポートを行った。その結果目標を達成した。	【課題】 青少年健全育成に寄与するためにも、青少年委員と地域や学校、さらには、青少年健全育成他団体との連携強化が求められている。 【今後の予定・方向性】 青少年委員会と密に情報共有を行い、ブロック活動が円滑に進むよう支援することで、地域のコーディネート機能を向上させていく。	8	B
新型コロナウイルスが5類に移行され、制限がなくなったことから、主催事業数が大幅に増加したと考えられる。課としては、各地区対の事務局である区民事務所を通じて、まずは、規模を縮小してでも実施できるよう、活動のサポートを行った。	【課題】 実施事業が類型化してしまっており、また、構成委員間で意思疎通に齟齬が生じている地区対も散見されるようになった。 【今後の予定・方向性】 事務局となる区民事務所とも連携し、各地区対との情報共有を図っていく。また、令和6年度から補助事業の範囲を拡充して、さらにより多くの子どもたちに体験活動の場を提供していく。	9	C
青少年健全育成の中核である各地区対と会議を実施するなど、連携を強化したことで、コロナ禍で断ち切られた地域の子どもの「居場所」や「体験活動」づくり事業の再開に寄与することができ、実績値が大幅に増加した。	【課題】 実施事業が類型化してしまっており、また、構成委員間で意思疎通に齟齬が生じている地区対も散見されるようになった。 【今後の予定・方向性】 補助事業の範囲を拡充し、どのような家庭環境にある子どもたちにも体験活動の場を提供できるようにしていく。	10	C-
目標を達成することができなかったが、スーパー研修会への参加者が前年度から増加したことに伴い(前年度比21人増)、10人以上増加させることができ、達成率は大幅に改善した。	【課題】 構成員が増加した一方で、脱退した構成員も一定数存在したため、活動の意義、魅力等を深く理解してもらう必要がある。 【今後の予定・方向性】 スーパー研修会において、ジュニアリーダークラブへのさらなる加入促進を図るとともに、在籍している構成員に対しては、活動を継続してもらえるよう努めていく。	11	C

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動12		青少年課	ジュニアリーダー研修会の参加者数	人	実績値	560	203	64	303	290	
					目標値	-	575	250	480	310	650
					達成率	-	35%	26%	63%	94%	-
活動13		青少年課	子ども会育成者の研修会実施回数	回	実績値	22	0	0	17	16	
					目標値	-	22	22	22	19	23
					達成率	-	0%	0%	77%	84%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
事前の申し込み段階では、前年度と同程度の申し込みがあったが、大雨により4会場で研修会が中止になったこともあり、目標を達成できなかった。	【課題】 参加者数が少ない会場があるため、参加者数の増加に向けた取り組みが必要である。 【今後の予定・方向性】 参加者が少ない地域の小・中学校においては、ジュニアリーダー研修会のPRをさらに強化する。また、参加者の申込み状況について、SNSを活用した発信を行う。	12	C
より充実した研修を実施するために検討を行った結果、1か所あたりのスタッフを充実させることになった一方で、実施会場数を減少させることとなり、結果として目標値を下回る結果となった。	【課題】 子ども会の育成者が高齢化していく中、子ども会活動の継続に向けて、若い世代の育成者を養成していかななくてはならない。 【今後の予定・方向性】 少連協と連携し、今後もより効果的な研修の継続していくとともに、研修の周知についても、さらに広く実施していく。	13	C-

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
【助言・今後の期待への反映率】 助言が活かされ、数値も改善されている。 【目標・成果の達成状況】 ＜多様な体験活動の機会の充実＞ 成果指標の1、3、および活動指評の1～3、5・6については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。活動指標4「子ども百人一首の参加率」については、目標値の見直しが必要だと考える。 ＜子ども・若者が育つ地域環境の整備＞ 成果指標の3、および活動指標の8・9・11・12については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、成果指標2、活動指標10・13については目標値までには少し開きがある。 【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 ＜多様な体験活動の機会の充実＞ 取組は戦略の方向性に沿っていると一定の評価はできる。成果指標1は目標値をおおむね達成しており、それに関連する活動指標1(自然教室)、活動指標2(大学連携事業提供数)、活動指標3(留学生交流学习)の目標値はほぼ達成している。今後、多様な体験活動の方向性を模索するためにも、今の子どもたちの実態や必要性を考慮し、各大学等と講座の内容や実施方法を工夫することも必要だと考える。 ＜子ども・若者が育つ地域環境の整備＞ 取組の方向性は一定の評価はできる。成果指標2「『地域の行事に参加している』に肯定的な回答した割合」は、地域の行事に参加していない児童の存在が目標値に達成できなかった理由の一つになっているとのことであった。活動指標7、8、13は、地域活動を支える側に着目した指標である。また、活動指標8、9、10は子どもに地域活動の場を提供している機会に着目した指標である。回数や人数といった数に着目した指標であるが、事業の内容や参加者(子ども・大人)の意識にも着目する指標の開発が求められる。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 多様な体験活動の機会の充実や、子ども・若者が育つ地域環境の整備は、学校文化の中では得にくい経験や他者と出会う機会につながったり、多様な子どものニーズを保障したりできる可能性があり、効果的な取組だと考えられる。今後は、学校文化に馴染めない子どもや要支援家庭の子どもも含めて、より多くの子どもたちが参加する体験活動になるように、学校・大学・関係団体との協働のあり方のさらなる工夫が必要だと考える。	多様な子どもたちの育ちを保障できるように、学校の中では経験しにくい体験や人と出会う機会になる地域の取り組みを、地域と連携して促進していく必要があると考える。また、その視点を、指標にしていくことも重要である。								
評価レーダーチャート									
観点1 5 観点2 5 観点3 5 観点4 5 全体評価 B									
<table><thead><tr><th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th><th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th><th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th><th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th></tr></thead><tbody><tr><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr></tbody></table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	5	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	5	5	5						

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	子ども施設運営課 子ども政策課 青少年課
戦略2	家庭教育支援の充実		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果1	1	子ども政策課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園の保護者アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはんをこころがけるようになった」と回答した方の割合（令和2年度より設問追加）	%	実績値	-	68.3	72.2	88.2	84.2	
					目標値	-	-	65	73	90	90
					達成率	-	-	111%	121%	94%	-
成果2	2	子ども施設指導・支援課	基本的な生活習慣が身についている小学1年生の割合（※施策2の再掲）	%	実績値	90.6	88.4	87	87.9	89.8	
					目標値	-	90	90	90	90	90
					達成率	-	98%	97%	98%	100%	-
成果3	3	子ども政策課	「子育て仲間づくり活動」の保護者アンケートで、「学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながった」と回答した方の割合（令和4年度新規追加指標）	%	実績値	-	-	-	91	92.7	
					目標値	-	-	-	65	95	95
					達成率	-	-	-	140%	98%	-
成果4	4	青少年課	家庭教育支援講座の受講者を対象としたアンケートにおいて、「今後に生かせると思う」に肯定的な回答をした割合（令和2年度より実施）	%	実績値	-	100	94	100	100	
					目標値	-	-	65	85	90	95
					達成率	-	-	145%	118%	111%	-
成果5	5	青少年課	「あだち家族ふれあいの日」利用者数（令和5年度新規追加指標）	人	実績値	-	-	-	-	72,480	
					目標値	-	-	-	-	103,300	80,551
					達成率	-	-	-	-	70%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

めざす方向性	家庭に対して、規則正しい生活リズムの定着や、子どもを育てる上で実践することが望ましい内容の啓発を図るとともに、家族がふれあう機会、保護者同士がつながる機会を提供することにより、子どもたちが健やかに育つことができる家庭環境の醸成を図ります。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
アンケートで早寝・早起き・朝ごはんを「心がけるようになった」、「既に心がけている」と回答した方を合わせた割合はR5は84.2%。	【課題】 アンケートで早寝・早起き・朝ごはんを「心がけるようにならなかった」と回答した保護者が一定数いる。 【今後の予定・方向性】 アンケートの結果を検証し、事業の改善を検討する。
4月に入学した小学校1年生の児童を対象に行ったアンケートでは、基本的な生活習慣が身につけている1年生の割合は89.8%であり、概ね目標どおりであった。小学校教員と就学前施設の保育者を対象に行う接続期教育研修会に加え、保育者に対して教育・保育力向上研修を31回実施し、幼保小連携活動の推進及び教育・保育内容の質向上を図った結果、子どもの学び意欲が高まり、基本的な生活習慣の獲得につながった。	【課題】 幼保小連携活動を行うことで、子どもの学びが深まり、遊びや生活に活かされた実践事例の報告があった。活動を行うことがねらいではなく、子どもの実態に合った活動を小学校教員と就学前施設の保育者がともに検討し、子どもたちの体験からどのような姿につながっているかを共有していくことが求められる。 【今後の予定・方向性】 子どもたちが幼児教育から小学校教育への滑らかな接続や、必要な体験の実現に向け、接続期教育研修や教育・保育力向上研修を実施することで互いの教育・保育の理解を深化させる。 また「足立区小学校1年生アンケート」では、教育環境の変化に対応しながら質問項目の検討を行い、子どもたちの育ちにつなげていく。
回答者数484人中、「はい」と回答した方が449人、92.7%。	【課題】 学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながっているが、申請団体が少ないため、拡大するよう周知が必要。 【今後の予定・方向性】 申請、利用方法等の子育て中の保護者に周知するため、引き続き施設を通じて周知していく。
家庭教育支援の一環として、キャリア教育講座を年4回実施した。すべての講座で、企業の採用担当者や現役の高校生・大学生等、実際の関係者が登壇することで、参加者により身近な内容となるよう実施した。また、参加者と関係者が直接ディスカッションできる時間を設ける等、参加者の悩みの共有、支援に務めたことで、目標値を超える実績値を維持することができた。	【課題】 保護者に向けた講座がほとんどであり、親子で参加できる講座など、実際の当事者である子供が関われる講座も併せて検討する必要がある。 【今後の予定・方向性】 引き続き、キャリア教育講座を継続することに加え、親子で出席できる講座や思春期の子どもとの接し方等、家庭教育の基盤となる親子の交流に係る講座の実施を検討していく。
コロナ過前(令和元年度)の実績値の約8割を目標値として定め、SNS等を活用し、積極的な情報発信を行ってきた。その結果、目標には届かなかったが、利用者数は年々増加してきている。 なお、コロナ過におけるオンラインコンテンツの充実等、直接利用しなくても楽しめる環境が整ってきたことも影響していると考えられる。	【課題】 コロナ過前の実績値に至る事業がある一方で、休館や廃業等により実績値が低調な事業がある。 【今後の予定・方向性】 引き続き、SNS等を活用しながら周知活動に務めることに加え、実績値の推移に注視し、発信回数や活用するSNSの種別の検討を行う等、情報発信を通して、利用者のさらなる増加を図っていく。

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果	6	青少年課	親子科学体験講座参加者アンケートで「今回の体験から、これからも新しいことにチャレンジしてみようと思った」と回答した方の割合（令和5年度新規追加指標）	%	実績値	-	-	-	-	90	
					目標値	-	-	-	-	-	80
					達成率	-	-	-	-	-	-

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	1	子ども政策課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む園の割合 ※4・5歳児の在籍園に限る	%	実績値	73.1	71	73	72	47.1	
					目標値	-	76.5	76.5	80	80	93.5
					達成率	-	93%	95%	90%	59%	-
活動	2	子ども政策課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む小学校の割合（令和2年度より実施） ※小学1年生を対象	%	実績値	-	100	52.2	65	59.7	
					目標値	-	-	50	60	70	100
					達成率	-	-	104%	108%	85%	-
活動	3	子ども施設指導・支援課	幼児教育の取組に関する保護者等への啓発活動（SNS投稿回数）（令和4年度変更指標）	回	実績値	-	-	-	8	9	
					目標値	-	-	-	6	6	6
					達成率	-	-	-	133%	150%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
過去の参加者アンケートで初めて経験した、チャレンジしたとの割合が高かった内容を参考に、興味があるが普段あまり馴染みがないような講座を積極的に開催した。また、複数回に渡って1つの体験(活動)が継続するような講座とすることで、1つ1つ段階的に達成感を感じることができ、結果的に高い水準の実績値を得ることができた。	【課題】 複数の学年が参加しており、一部参加者からは講座の内容が理解しづらかったとの声もあった。児童の学年や理解度に応じてサポートの程度を調整するなど、講座に参加した児童全員が、同等に理解しながら講座を進めることができるよう、より充実したサポート体制を検討する必要がある。 【今後の予定・方向性】 講座内容の検討だけでなく、参加した児童の学年等も考慮しながら講座の進め方・サポートの仕方について改善を図っていく。

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
R5は126施設。 「早寝・早起き・朝ごはん」カレンダー(1年版)またはチェックブック(4週間版)のどちらかに取り組んだ施設数。 配布を希望する園が19施設減少(私立幼稚園、私立保育園で減少傾向)したことで、目標を下回った。	【課題】 早寝・早起き・朝ごはん」カレンダー1年間版は、期間が長いことから負担感を感じ実施を躊躇する園も一定数ある。 【今後の予定・方向性】 アンケートの結果を検証し、事業の改善につなげる必要がある。	1	D
R5は40校。 学校に配付希望調査を実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」チェックブック(4週間版)を夏休みまでに、1年生の児童数分を配布。 配布を希望する学校が減少したことで、目標を下回った。本来、就学前に身につけておきたい生活習慣であり、既にできているため不要と考える学校もあると思われる。	【課題】 保護者アンケート結果から、入学前に取り組んだことがある児童が多くいるため、重複した配付となる。また既に心がけている児童が多く、配付されても取り組まない家庭も多くある。 【今後の予定・方向性】 アンケートの結果を検証し、事業の改善につなげる必要がある。	2	C-
「家庭で心がけたい10の大切なこと」に合わせ、区立園で行っている歯磨き習慣、身の回りのことを自分で行う、自然に触れる体験等の活動をSNS(X)で9回発信し、目標を達成した。	【課題】 家庭に向けてSNS発信(X)しているが、文字数が限られているため、写真から状況を理解してもらうことが求められる。 【今後の予定・方向性】 今後は、利用できるSNSツール(Facebook等)を検討し、SNS発信方法を増やしていく。また、コドモンのアンケート機能を利用し、満足度等の調査を行い、調査結果をSNSの投稿内容に反映させていく。	3	A

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動4	子ども政策課	「子育て仲間づくり活動」を実施した団体数 (令和4年度目標値追記指標)	団体	実績値	46	4	7	10	13	
				目標値	-	48	48	48	31	60
				達成率	-	8%	15%	21%	42%	-
			回	実績値	-	-	-	24	39	
				目標値	-	-	-	145	145	180
				達成率	-	-	-	17%	27%	-
活動5	青少年課	家庭教育支援講座の実施数【延べ人数】	回	実績値	15	5	3	4	4	
				目標値	-	16	16	16	16	5
				達成率	-	31%	19%	25%	25%	-
			人	実績値	79	19	19	17	33	
				目標値	-	74	86	86	86	50
				達成率	-	26%	22%	20%	38%	-
活動6	青少年課	あだち家族ふれあいの日に関する家族への啓発活動(SNS投稿回数) (令和5年度新規追加指標)	回	実績値	-	-	-	-	9	
				目標値	-	-	-	-	10	12
				達成率	-	-	-	-	90%	-
活動7	青少年課	親子科学体験講座実施回数 (令和5年度新規追加指標)	回	実績値	-	-	-	-	38	
				目標値	-	-	-	-	38	38
				達成率	-	-	-	-	100%	-
			名	実績値	-	-	-	-	505	
				目標値	-	-	-	-	540	540
				達成率	-	-	-	-	94%	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
R5は13団体。コロナ禍で大きく減少した団体数だが、年々増加してきている。	【課題】 申請手引きを保育施設、幼稚園、子育てサロン等の施設を通じて年度当初に配付しているが、申請する団体数はコロナ禍以前と比較すると少ない。 【今後の予定・方向性】 申請、利用方法等を子育て中の保護者に周知するため、引き続き施設を通じて周知していく。	4	E
過去、西新井地区のみでの実施であった講座を、令和5年度は北千住、綾瀬、西新井の3地区に分散して講座を実施した。その結果、定員には満たないものの、参加者数は前年度と比べ約2倍となった。また、参加者からは、講座内容に関して好意的な評価をえている。 なお、講座の実施数については、中高生の保護者をターゲットにしたキャリア教育を重点的に行ったため、前年度と同数の実施とした。	【課題】 いまだ多くの講座において定員に満たない応募となっている。保護者の興味・関心が多様化する中で、より多くの保護者を参加に結び付ける講座内容や、開催場所や日時を工夫していく必要がある。 【今後の予定・方向性】 令和5年度の参加者アンケートなどを参考に、興味・関心が高い講座内容を企画していくとともに、参加しやすい日時や場所の設定などを行うことで参加者数の増加を目指していく。	5	E
過去数年のコロナ禍で人が集まりづらい環境から、事業の認知度が低下していると考えられている。そのため、まずは認知度を向上させるために定期的にSNSなどで発信し、利用に結び付けるべく啓蒙活動を実施してきた。	【課題】 コロナ過前の実績値に至る事業がある一方で、実績値が低調な事業がある。 【今後の予定・方向性】 実施事業に応じて、その主たる利用者に届きやすい周知方法の検討と採用を行っていく。また、周知内容も定型的ではなく、より興味をひくような内容へと改善していく。	6	C
親子で一緒に体験できる講座でもあり、多くの講座で定員をこえる応募があった。1つの講座は4～5回制で行っていることから、都合によっては、すべての回に参加できない場合も存在している。	【課題】 講座に参加した児童全員が、同等に理解しながら講座を進めることができるようサポート体制を検討する必要がある。 【今後の予定・方向性】 引き続き、アンケート結果をもとに、児童の関心の高いテーマの講座を実施することに加え、児童の作業進捗や理解度に応じたサポート体制を検討していく。	7	C

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略2 家庭教育支援の充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
【助言・今後の期待への反映率】 新たな指標は開発されており、助言が活かされている。 【目標・成果の達成状況】 成果指標2・3・4、および活動指標3は、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。しかしながら、活動指標1、4、5は目標値とは大幅に開きがある。 【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 ＜規則正しい生活リズムの定着＞ 規則正しい生活リズムの定着を図るために、園や小学校が「早寝・早起き・朝ごはんカレンダー」に取り組むことに着目し、取り組んでいる園数を活動指標に、取り組んだ保護者の意識を成果指標としている。保護者の意識を問うた指標は、方向性としては評価できる。しかしながら、配布希望園および学校数が減少していることから、今後、取り組みの工夫が求められる。 ＜子育てに関する望ましい内容の啓発＞ 子どもを育てる上で実践することが望ましい内容の啓発を図ることは、とても重要であると考えられる。活動指標3は、啓発活動としてSNSへの投稿回数を指標としており、昨年度よりも達成率が向上していることは評価できる。今後も、SNSやその他のツールも含めて、子育てに悩む親等が参考になる内容を分かりやすく発信していくことは必要だと考える。 ＜保護者同士がつながる機会の提供＞ 成果指標3、4は、保護者同士がつながる機会を目的とした活動やキャリア講座に参加した保護者を対象に、参加後の意識に着目した指標である。対象者の意識を問う指標内容は、方向性としては評価できる。今後、活動指標4「子育て仲間づくり活動」の団体数や、活動指標5の講座の実施数・参加者数という数だけではなく指標の工夫も必要だと考えられる。 ＜家庭環境の醸成を図る＞ 成果指標5・6、活動指標6・7は、令和5年度新規追加指標であるが、「めざす方向性」に合致した適切な指標内容であると考えられる。発信方法を工夫しながら、より多くの家庭が情報を得ることができる環境になることを期待したい。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 規則正しい生活リズムの定着や保護者同士がつながる機会の提供は、保護者の意識に着目した成果指標となっており、一定の評価ができる。しかし、保護者同士がつながる機会の提供方法には課題がある。子どもが同年齢の保護者だけではなく、幅広い年代の保護者同士が出会う機会等の工夫も必要になると考えられる。	＜規則正しい生活リズムの定着＞ 「早寝・早起き・朝ごはん」への意識向上と取り組み促進に向けて、カレンダーに加えて、他のアイテムの開発も必要ではないかと考える。 ＜子育てに関する望ましい内容の啓発＞ 活動指標に関連する成果指標を、新たに追加することも必要ではないかと考える。 ＜保護者同士がつながる機会の提供＞ SNS等も活用しながら、保護者同士が直接つながる機会を提供する工夫も必要だと考える。また、講座は、オンデマンドも活用し、参加しやすい環境を整えていく必要もある。								
評価レーダーチャート									
観点1 7 6 6 5 4 3 2 1 0 5 観点2 5 観点3 5 観点4 全体評価 B									
<table><thead><tr><th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th><th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th><th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th><th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th></tr></thead><tbody><tr><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr></tbody></table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	6	5	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
6	5	5	5						

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	教育指導課 環境政策課
戦略3	社会的自立に必要な力の育成・支援		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6	
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
成果	1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	86	74.3	-	-	86	72.2	84.6	69.7	87.8	70.7	
					目標値	-	-	86.5	75.3	86.7	75.3	87.2	76.9	88	78	89
					達成率	-	-	-	-	99%	96%	97%	91%	100%	91%	-
成果	2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	49.4	36.9	-	-	46.7	39.3	49	35.4	73.3	60.7	
					目標値	-	-	51.2	39.1	51.2	39.1	54.4	42.8	56	46	60
					達成率	-	-	-	-	91%	101%	90%	83%	131%	132%	-
成果	3	子どもの貧困対策・若年者支援課	高校生世代の居場所型学習支援の利用者アンケート回答者の内、「ここでの経験を今後に生かして、困難なことがあっても夢や希望の実現に向かって、チャレンジしてみようと思う」に肯定的な回答をした利用者の割合(令和5年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					目標値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.0
					達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成果	4	子どもの貧困対策・若年者支援課	足立ミライゼミを受講し、第一志望の大学に合格した生徒の割合(令和5年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					目標値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70(※1)
					達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 令和7年度に卒業生が出るため本指標の目標値は令和7年度のものとなる。

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

めざす方向性	夢や希望の実現に向けて適切な進路選択を行い、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を育むため、キャリア教育や主権者教育、環境教育の充実を図ります。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
令和5年度は、目標値を下回ったが、前年度より実績値が上昇した。しかし、中学校においては微増である。 キャリア教育の充実が十分に図られていないことが考えられる。 今後、児童・生徒が自己の将来の、社会的・職業的自立にむけて、資質能力を身に付けられるように、教員向けのキャリア教育研修の充実を図っていく必要がある。	【課題】 児童・生徒が自己の将来の、社会的・職業的自立にむけて、資質能力を身に付けられる授業の実現に資する、教員向けのキャリア教育研修の充実。 【今後の予定・方向性】 学校の教育活動全体を通じて、組織的かつ、計画的にキャリア教育の充実を図る研修を実施するなど、従前のキャリア教育研修の内容を改善していく。
令和5年度は、目標値を大幅に上回った。前年度までの「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問事項から「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に変更され、児童・生徒が実生活に関連付けて考えやすい質問になったためだと考えられる。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行したため、職場体験などを実施することができた。	【課題】 中学校3年生の肯定的な回答が60%程度に留まっていること。 【今後の予定・方向性】 肯定的な回答率が高まるように、社会科や特別活動、総合的な学習の時間等を有効活用し、児童・生徒が社会形成の一員であることを意識できるような実践を行うことで、回答率が高まるようにしていく。
R6年度からの成果指標のため、アンケートは未実施。	【課題】 支援を必要としている若者の利用がさらに増えるよう、創意工夫しながら情報発信を行っていくとともに、利用を通じて、利用者の希望する進路実現や社会的自立につながるよう支援をしていく必要がある。 【今後の予定・方向性】 関係機関からの紹介がきっかけで、利用につながるケースが多いことから、高校や大学、関係機関等への訪問を通じて、さらなる事業周知を図っていく。また、施設においては、学習支援・食事・体験活動などを行い、若者の夢や希望の実現ができるよう、スタッフが寄り添いながらサポートをしていく。
模擬試験の結果が第一志望校の合格判定B以上の人数(令和6年度重点プロジェクト事業「若年者全力応援事業」にて目標値10人と設定)が12人と高い結果となっている。	【課題】 学力が向上するよう、一人ひとりの成績状況等に応じた支援をしていくとともに、長期的な支援となるため、メンタルケアやモチベーションが維持できるよう、必要に応じて面談等のサポートを行っていく必要がある。 【今後の予定・方向性】 令和6年度は、講座の実施時間拡大(60分→90分)や講師が常駐する自習室を開室するなど、学力向上を目指し支援していく。

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
活動	1	教育指導課	キャリア教育支援事業の事業参加児童・生徒の割合 (令和5年度変更指標) ※ 平成30年度までは小学校のみが対象で、令和元年度以降は小・中学校が対象	%	実績値	-	-	-	85.4	92.9							
					目標値	-	-	-	100	95	100						
					達成率	-	-	-	85%	98%	-						
活動	2	教育指導課	夢デザインシートを活用している小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100							
					目標値	-	100	100	100	100	100						
					達成率	-	100%	100%	100%	100%	-						
活動	3	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合 (※施策1及び戦略1の再掲)	%	実績値	100	-	2.9	45.7	100							
					目標値	-	100	100	100	100	100						
					達成率	-	-	3%	46%	100%	-						
活動	4	教育指導課	租税教室開催の小・中学校の割合	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
					実績値	100	48.5	-	-	95.7	25.7	98.5	34.3	98.5	40		
					目標値	-	-	100	50.4	100	50.4	100	52.9	100	55.5	100	60
					達成率	-	-	-	-	96%	51%	99%	65%	99%	72%	-	-
活動	5	教育指導課	税についての作文に取り組んでいる中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100							
					目標値	-	100	100	100	100	100						
					達成率	-	100%	100%	100%	100%	-						

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和5年度は、目標値を下回ったが、前年度より実績値が上昇した。学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感し、将来の社会的・職業的自立の基礎となる資質・能力を育むための学習活動を実施し、キャリア教育支援事業を活用した。	【課題】 学校の規模や、児童・生徒の実態に合わせた事業の実施。 【今後の予定・方向性】 令和6年度も学校におけるキャリア教育支援事業の活用をより一層図るため、体験施設等の情報提供を積極的に行うなど、学校への支援を行う。	1	C
小学校から中学校までの9年間のキャリア教育の連携を図った夢デザインシートの活用について、研修を年2回実施した。研修において、指導力中核校の取組や研究成果を紹介した。小学校から中学校へと引き継ぐことで、小学校で培った「よさ」や「夢や希望」等を中学校でも受け止めつつ、卒業後の進路を自ら切り開いていくことができる力を育んでいる。	【課題】 夢デザインシートをどの場面で活用すると有効なのか、ということについての教員の理解。 【今後の予定・方向性】 令和6年度も引き続き年2回の研修を実施し、系統的にキャリア教育を推進するため、キャリア教育担当者だけでなく、職層研修においてもキャリア教育への理解を目的とした教員研修を実施する。	2	B
令和5年度は、新型コロナウイルスの扱いが5類に移行されたため、全中学校が職場体験を実施することができた。職場体験を通して、生徒が直接働く人と接したり、実践的な知識や技術・技能に触れたりすることで、働くことの意味や意義を与える機会となっている。	【課題】 中学校において、全校で職場体験を実施できているため、今後も引き続き学校へ職場体験の実施に関する周知を行う。 【今後の予定・方向性】 令和6年度も引き続き、区内全中学校が職場体験を実施する予定である。足立区役所内でも受け入れが可能な所管の確認を行い、中学校に周知していく。	3	B
租税教育推進に向け、西新井間税会及び足立間税会と連携しながら、租税教室開催通知を小・中学校に案内し、児童・生徒が税について主体的に考える機会を設けている。	【課題】 中学校において、租税教室を開催している割合が低い現状であるが、前年度と比べ改善が見られるため、引き続き租税教育の開催について周知を徹底する。 【今後の予定・方向性】 校長会にて周知を行うとともに、キャリア教育研修において、租税教育、消費者教育等につながる実践事例を取り入れた研修を実施していく。	4	C-
教育指導課から全中学校に「税について作文」の実施を依頼している。「租税」は財政との関連やその意義、あわせて納税の義務についての理解が求められており、公民としての資質・能力の基礎を育成している。	【課題】 中学校において、全校で税についての作文に取り組んでいるため、今後も引き続き学校へ税の作文の実施に関する周知を行う。 【今後の予定・方向性】 校長会にて周知を行うとともに、キャリア教育研修において、租税教育、消費者教育等につながる実践事例を取り入れた研修を実施していく。	5	B

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動6	教育指導課	教員を対象にした消費者教育に関する研修会の実施回数	回	実績値	2	0	2	2	2	
				目標値	-	2	2	2	2	2
				達成率	-	0%	100%	100%	100%	-
活動7	環境政策課	小・中学校環境学習出前講座の実施回数(令和4年度より指標変更)	回	実績値	-	-	48	79	95	
				目標値	-	-	50	55	100	105
				達成率	-	-	96%	144%	95%	-
活動8	子どもの貧困対策・若年者支援課	高校生世代の居場所型学習支援事業の年間利用登録者数(令和5年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	-	29	
				目標値	-	-	-	-	50	50
				達成率	-	-	-	-	58%	-
活動9	子どもの貧困対策・若年者支援課	足立ミライゼミの全講座の平均出席率(令和5年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	79.2	
				目標値	-	-	-	-	-	80
				達成率	-	-	-	-	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
キャリア教育研修の中で消費者教育に関する研修会を実施しており、継続して目標を達成した。	【課題】 小学校段階から、実態に応じて、現代社会の諸課題を積極的に取り上げる教育の推進を図る。小学校で使用する2冊のキャリアパスポートを確実に中学校に引き継ぐ。	6	B
	【今後の予定・方向性】 令和6年度も引き続き年2回のキャリア教育研修会と合わせて実施を計画していく。		
小・中学校環境学習出前講座については、実施見込数を元に目標値を設置していた。 実績値は令和4年度を上回ったものの、学校と事業者との間で日程調整がつかずに未実施となったものがあり、目標値を下回った。	【課題】 小学校に比べ、中学校での実施が少ない。また、1校で複数の講座を実施している学校が多く、実施校の偏りがある。	7	C
	【今後の予定・方向性】 実施校数の拡大のため、講座メニューの拡充や学校への周知の時期について検討する。		
令和5年度より事業を開始。定員50名のところ、29名の若者が利用登録(充足率58%)。そのうち、約80%が東京都のYSWやNPO団体、区の関係機関などの紹介で利用登録につながっている。高校中途退学者の学び直しや通信制高校に通っている高校生への補習サポートなどを行った結果、約70%の利用者が進路先を決定し、中退予防や希望する進路実現につながった。	【課題】 支援を必要としている若者に情報が届くよう創意工夫しながら情報を伝え、さらなる利用者を増やしていく必要がある。	8	D
	【今後の予定・方向性】 関係機関からの紹介がきっかけで、利用につながるケースが多いことから、高校や大学、関係機関等への訪問を通じて、さらなる事業周知を図っていく。		
令和5年度は36回の講座を実施。全生徒の平均出席率は令和6年度の目標値には届かなかったが、2年生へ進級(※)できた生徒の出席率は83.6%と高い出席率となっている。	【課題】 生徒へのメンタルケアなどのサポートをしながら出席率を向上させるとともに、学力も向上するよう、一人ひとりの成績状況等に応じた支援をしていく必要がある。	9	-
※ 出席状況、学力診断テストの結果、面談を総合的に判断し、2年生への進級者を決定(3名は退塾)	【今後の予定・方向性】 令和6年度は、講座の実施時間拡大(60分→90分)や講師が常駐する自習室を開室するなど、学力が向上できるよう支援充実を図る。		

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

【点検・評価委員による評価】														
全体評価		今後の期待・要望												
【助言・今後の期待への反映率】 評価(助言)を積極的に反映した。(反映率70%程度) 租税教室の開催など改善が見られるものの、目標値まで至らなかった指標が若干見られた。 【目標・成果の達成状況】 優れた取組がいくつかあり、戦略の目標に向け、成果が出ている。 全体的な傾向として、一部を除きほとんどの指標において目標値を達成している。 成果指標1について、小学校では目標値を達成しているものの、中学校では91%にとどまった。小・中学校ともに昨年度の実績値から上昇しており、成果は認められるので、引き続き取組の充実が求められる。 成果指標2については、小・中学校ともに目標値を大幅に上回った。質問事項が肯定的に回答しやすい問に変更されたことが原因と推測されるとはいえ、昨年度に比べて大幅に上昇していることは評価できる。 活動指標4の中学校の取組が目標値を大きく下回った。中学校における租税教育の実施方法も含めて対応を検討することが考えられる。 活動指標8について大きく目標値を下回った。昨年度からの事業ということで周知が十分行き届いていないことが想定される。本事業の周知が大切である。 【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】 各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。 子どもたちが社会的な自立を図るための取組として、キャリア教育、租税教育、消費者教育、環境教育などを推進するための取組が実施されており、戦略の方向性に合致するものと考える。 【児童・生徒にとって真に効果的か】 いくつかの取組により概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。 各取組は戦略の方向性に合致しているものの、いくつかの活動指標において目標値を下回ったものが見られた。 目標値を下回った原因を分析もなされており、今後、必要な取組を進めてほしい。		成果指標において中学校にやや課題が見られたものの、概ね目標値を達成している。 多くの活動指標も概ね目標値を達成していると考える。目標値に足らなかった指標について原因の分析に基づき、一層の取組を推進してほしい。												
全体評価レーダーチャート														
<table border="1"><thead><tr><th>観点</th><th>観点1</th><th>観点2</th><th>観点3</th><th>観点4</th></tr></thead><tbody><tr><td>評価</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td></tr></tbody></table> 全体評価 C					観点	観点1	観点2	観点3	観点4	評価	5	5	5	4
観点	観点1	観点2	観点3	観点4										
評価	5	5	5	4										
【観点1】 助言・今後の期待への反映率		【観点2】 目標・成果の達成状況		【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか										
5		5		5										
【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か														
4														

第3章 評価シート（実績値）

本章では今年度の評価対象外である以下の3つの施策における達成状況を掲載しております。

- ・ 施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
- ・ 施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
- ・ 施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実

施策 1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略 1 豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・	75
戦略 2 健やかな体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・	79

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略1 豊かな心の育成

施策1	児童・生徒の心身の健全な発達の支援	記入所属	教育指導課 学務課 青少年課 地域文化課
戦略1	豊かな心の育成		
めざす方向性	人権教育を推進して人権尊重の意識の向上を図るとともに、道徳教育や様々な体験活動を通じて、基本的生活習慣や規範意識を確実に身につける指導・支援を行います。 人間としての尊厳、自他の生命の尊重、倫理観などの道徳性を養い、法やルールを遵守する意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人の育成をめざします。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6	
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
成果1	1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	72	62	-	-	73.7	67.6	75.2	68.6	77.8	69.8	/
					目標値	-	-	73	63.3	73.4	64	74.7	65.9	75	68	78
					達成率	-	-	-	-	100%	106%	101%	104%	104%	103%	-
成果2	2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	93	92.3	-	-	93.6	93.2	94.1	93.3	95.4	93.6	/
					目標値	-	-	93.5	92.8	93.5	93	94	93.6	94.5	94	96
					達成率	-	-	-	-	100%	100%	100%	100%	101%	100%	-
成果3	3	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のきまりを守っている」に肯定的な回答をした割合(※)	%	実績値	86.3	93.3	-	-	/	/	/	/	87	94.7	/
					目標値	-	-	86.9	93.6	87.2	93.7	87.6	93.8	88	94	90
					達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	99%	101%	-
成果4	4	教育指導課	研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	-	-	95.1	-	95.4	-	/
					目標値	-	-	-	-	-	-	100	-	100	-	100
					達成率	-	-	-	-	-	-	95%	-	95%	-	-

※1「全国学力・学習状況調査」から当該設問が削除されたため、令和5年度より調査元を「足立区学力定着に関する総合調査」に変更した。

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略1 豊かな心の育成

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育指導課	教員対象の人権教育の研修会の参加小・中学校の割合【参加延べ人数】	%	実績値	100	96.3	92.3	102	100	
				目標値	-	100	97.2	100	100	100
				達成率	-	96%	95%	102%	100%	-
			人	実績値	291	130	96	105	218	
				目標値	-	294	294	103	102	102
				達成率	-	44%	33%	102%	214%	-
活動2	教育指導課	道徳教育研修会の実施回数	回	実績値	2	1	2	2	2	
				目標値	-	2	2	2	2	3
				達成率	-	50%	100%	100%	100%	-
活動3	教育指導課	道徳授業地区公開講座実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	7.7	33.7	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	8%	34%	100%	100%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略1 豊かな心の育成

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	4	学務課	自然教室における各学校の体験活動数の合計(野菜の収穫、日光彫、田植え・稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等)	回	実績値	905	205	525	1,072	928	
					目標値	-	905	905	905	905	905
					達成率	-	23%	58%	118%	103%	-
活動	5	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合(令和4年度新規追加指標) 【再掲】	%	実績値	100	-	2.9	45.7	100	
					目標値	-	100	100	100	100	100
					達成率	-	-	3%	46%	100%	-
活動	6	青少年課	区内の小・中学校及びこども園を訪問し、音楽教育支援活動としての音楽鑑賞会及びワークショップ、音楽科授業の指導補助、部活動の指導補助などの開催校となった「こども園」・「小学校」・「中学校」の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	40	50	
					目標値	-	-	-	52	52	53
					達成率	-	-	-	77%	96%	-
活動	7	地域文化課	芸術鑑賞体験事業の参加者数(令和5年度指標名変更)	%	実績値	-	-	-	4,948	4,765	
					目標値	-	-	-	5,187	5,101	4,957
					達成率	-	-	-	95%	93%	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

施策1	児童・生徒の心身の健全な発達の支援	記入所属	教育指導課 学務課 おいしい給食担当課 子ども政策課 子ども施設指導・支援課
戦略2	健やかな体の育成		
めざす方向性	足立区の子どもの健康状態については改善傾向が見られるものの、むし歯被患率や小児生活習慣病の有所見率は依然として高く、一層の改善に向けた取り組みが必要です。今後は、保健教育の一層の充実を通じて、児童・生徒が身近な生活における健康に関する知識を身につけることや、必要な情報を収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、健康な生活を実践する力を育成していきます。 幼い頃から楽しく体を動かす体験や様々な動きを経験することにより、生涯にわたって積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育みます。加えて、運動を通じて体力の向上を図るとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成する取り組みを積極的に進めます。		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果1	教育指導課	研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	95.1	95.4	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	95%	95%	-
成果2	学務課	小・中学生の適正体重割合(令和4年度新規追加指標)	%		小1小6中2	小1小6中2	小1小6中2	小1小6中2	小1小6中2	小1小6中2
				実績値	-	-	94.683.683.6	94.181.883.9	94.382.584	
				目標値	-	-	-	94.483.485.1	958385	95.584.686.8
成果3	学務課	小児生活習慣病予防健診結果における管理不要率(中学2年生) ※令和4年度点検及び評価より男女別に変更した。	%				男子女子	男子女子	男子女子	男子女子
				実績値	77	74.9	78.867	78.168.9	78.272.4	
				目標値	-	77.3	80.270.7	80.871.4	8072	82.172.8
成果4	子ども政策課	むし歯のある就学前児童(年長児)の割合 *低減目標	%	実績値	33.1	29.3	23.9	22.7	21.6	
				目標値	-	32.3	29	28	28	28
				達成率	-	110%	121%	123%	130%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
成果	5	学務課	むし歯のある児童・生徒の割合 ＊低減目標	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	43	33	38.7	30.9	38	30.8	36.1	29.5	33.1	28.5		
					目標値	-	-	41.8	32.7	38.7	30.9	38	30.8	33	29	36	31
					達成率	-	-	108%	106%	102%	100%	105%	104%	100%	102%	-	-
成果	6	学務課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「朝と夜、歯みがきをしていますか」に「朝と夜している」と回答した割合【学務課】（令和3年度新規追加指標）	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	-	-	-	-	76.1	86.6	76.2	85.2	74.2	85.1		
					目標値	-	-	-	-	75	86	76.1	86.6	76.2	85.2	77	87
					達成率	-	-	-	-	101%	101%	100%	98%	97%	100%	-	-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 1	教育指導課	養護教諭対象の研修会参加の小・中学校の割合	%	実績値	77.9	83.7	85.5	0	87.3	
				目標値	-	81.6	87.8	91.5	91.5	100
				達成率	-	103%	97%	-	95%	-
活動 2	学務課	貧血・小児生活習慣病予防健診受診率(中2)	%	実績値	89.5	86.6	85.8	81.3	78.8	
				目標値	-	90.1	90.1	90.1	90	93
				達成率	-	96%	95%	90%	88%	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
活動	3	子ども政策課	年少児から給食後の歯みがき(毎日)に取り組む園の数	園	実績値	132	42	34	39	82							
					目標値	-	145	145	70	130	210						
					達成率	-	29%	23%	56%	63%	-						
活動	4	子ども政策課	歯科健診で治療・相談が必要な子ども(年少児～年長児)のうち、医療機関を受診した子どもの割合(令和5年度新規追加指標)	園	実績値	-	-	-	-	76							
					目標値	-	-	-	-	70	72						
					達成率	-	-	-	-	109%	-						
活動	5	学務課	給食後の歯みがき(全学年・毎日)を実施する小・中学校の割合	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
					実績値	67	11	14.7	5.9	11.6	8.6	13.2	8.6	25.4	11.4		
					目標値	-	-	72.5	17.5	72.5	17.5	20	12	20	12	100	50
達成率	-		20%	34%	16%	49%	66%	72%	127%	95%	-	-					
活動	6	学務課	歯科健診でむし歯があった児童・生徒のうち、医療機関を受診した子どもの割合(令和4年度新規追加指標)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
					実績値	-	-	-	-	56.4	26.3	55.9	27.7	53.6	30.5		
					目標値	-	-	-	-	50	28	58	28	58	30	61	36
達成率	-	-	-	-	113%	94%	96%	99%	92%	102%	-	-					

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
					中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6
成果 7	おいしい給食担当課	ごはん、みそ汁、目玉焼き程度の料理を自分で作ることができる子どもの割合(中学2年生) ※小学6年生は、ごはん、みそ汁を自分で作ることができる割合	%	実績値	75	78	70	62	70	61	70	67	58	46		
				目標値	-	80	79.2	81.7	90	90	90	90	90	90	100	100
				達成率	-	98%	88%	76%	78%	68%	78%	74%	64%	51%	-	-
成果 8	おいしい給食担当課	給食のときに自ら一番はじめに野菜を食べる割合	%	実績値	56	57	59	62	60	59	63	66	62	66		
				目標値	-	70	63.3	64.2	70	70	70	70	70	70	100	100
				達成率	-	81%	93%	97%	86%	84%	90%	94%	89%	94%	-	-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
					園	小中	園	小中	園	小中	園	小中	園	小中	園	小中
活動 7	【園】子ども施設指導・支援課 【小中】おいしい給食担当課	「ひと口目は野菜から」の取り組みを実施した就学前教育・保育施設数及び小・中学校数 ※ 平成30年度 就学前教育・保育施設 142園 小・中学校 104校 ※ 令和6年度 就学前教育・保育施設 222園 小・中学校 102校	園・校	実績値	106	97	156	80	167	95	174	91	175	102		
				目標値	-	-	120	104	168	104	170	103	180	102	190	102
				達成率	-	-	130%	77%	99%	91%	102%	88%	97%	100%	-	-
活動 8	おいしい給食担当課	「給食メニューコンクール」応募作品数	作品	実績値	7,072		4,884		7,214		7,221		8,010			
				目標値	-		7,100		7,100		7,300		7,300		7,500	
				達成率	-		69%		102%		99%		110%		-	
活動 9	おいしい給食担当課	長期休み期間に「わが家のシェフになろう！」で子どもたちが実際に調理した食数	食	実績値	7,373		8,602		7,532		6,317		6,430			
				目標値	-		9,818		9,780		9,524		9,352		9,900	
				達成率	-		88%		77%		66%		69%		-	

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

		No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6			
成果	9		教育指導課	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」に肯定的な回答をした割合	%		小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	
						男	実績値	93.3	86.6	-	-	62.5	57.2	92.7	87.6	87.9	81.2		
							目標値	-	-	93.4	87	93.5	87.2	93.6	87.8	93.7	88.4	94	89
							達成率	-	-	-	-	67%	66%	99%	100%	94%	92%	-	-
						女	実績値	87.8	77.8	-	-	50.1	41.5	85.8	77.2	84.1	74.8		
							目標値	-	-	87.8	78	87.9	78.1	87.9	78.3	87.9	78.5	88	79
達成率	-	-	-	-	57%		53%	98%	99%	96%	95%	-	-						
成果	10		教育指導課	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力調査のボール投げの平均値	m		小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	
						男	実績値	20.6	19.8	-	-	19.1	19.4	19.4	19.3	19.2	20.2		
							目標値	-		20.9	20	21.1	20.1	21.3	20.3	21.5	20.3	22.5	21
							達成率	-		-	-	91%	97%	91%	95%	89%	100%	-	-
						女	実績値	13	11.9	-	-	12.7	12	12.4	11.6	12.6	11.5		
							目標値	-	-	13.2	12.1	13.3	12.2	13.5	12.4	13.5	12.4	14	13
達成率	-	-	-	-	95%		98%	92%	94%	93%	93%	-	-						
成果	11		教育指導課	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「運動やスポーツをどのくらいしていますか(学校の体育の授業は除く)」に「週1日以上運動している」と回答した割合(令和4年度新規追加指標)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
						実績値	-	-	-	-	78.7	72	82.7	77.6	84.7	85.8			
						目標値	-	-	-	-	81.6	71.6	82.4	72.7	83.6	74.6	84.6	74.6	
達成率	-	-	-	-	96%	101%	100%	107%	101%	115%	-	-							

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動10	教育指導課	体力向上推進計画実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動11	教育指導課	オリンピック・パラリンピックに関連した取り組みを実施した小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略2 健やかな体の育成

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動12	教育指導課	「足立区小学生長なわ・短なわチャレンジ」の実施校の割合	%	実績値	95.6	50.7	50	91.5	92.5	
				目標値	-	96.3	51	70	95	100
				達成率	-	53%	98%	131%	97%	-
活動13	子ども施設指導・支援課	年齢別研修のうち、集合研修(運動)への参加割合(保育士、幼稚園教諭) 目標値＝募集人数の7割程度を想定(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	58.3	48.3	
				目標値	-	-	-	70	70	70
				達成率	-	-	-	83%	69%	-
活動14	子ども施設指導・支援課	1日1時間の運動遊びを実施している就学前施設の割合(令和3年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	64	89.2	90.3	
				目標値	-	-	-	70	90	90
				達成率	-	-	-	127%	100%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1	不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	87
戦略2	不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援・・	91
戦略3	切れ目のない特別支援教育の推進・・・・・・・・	97
戦略4	いじめの早期発見・早期対応・・・・・・・・	103

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育相談課
戦略1	不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談		
めざす方向性	児童・生徒が抱える様々な悩みや課題の解決・改善を図ることができるよう、①教職員の専門的な知識・技術の習得、②各校における相談・支援体制の整備、③専門家や関係機関との連携協力に取り組み、一人ひとりに寄り添った支援を推進していきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果	1	教育相談課	個別のカウンセリングや心理・知能検査等を行う教育相談により、不登校等が解決または改善した割合	%	実績値	82	84	87	81.1	87.1	
					目標値	-	82.5	84	84.5	84.5	85
					達成率	-	102%	104%	96%	103%	-
成果	2	教育相談課	学校内で支援を行うSCにより、不登校児童・生徒が解決または改善へとつながった割合	%	実績値	72	80.1	77	79.3	82.2	
					目標値	-	72.8	74	75	76	77
					達成率	-	110%	104%	106%	108%	-
成果	3	教育相談課	家庭や生活環境も踏まえた支援を行うSSWにより、不登校等が解決または改善した割合	%	実績値	34	32.7	38.7	36.2	33.7	
					目標値	-	29	32	35	38	40
					達成率	-	113%	121%	103%	89%	-
成果	4	教育相談課	校内委員会での協議に基づく指導により、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	37	32	40	41	50	
					目標値	-	38.3	40	45	45	45
					達成率	-	83%	100%	91%	111%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6						
活動	1	教育相談課	教育相談の人数(実数)	人	実績値	1,468	1,478	1,555	1,616	1,725							
					目標値	-	1,473	1,500	1,500	1,500	1,500						
					達成率	-	100%	104%	108%	115%	-						
活動	2	教育相談課	SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数)	回	実績値	74,517	66,126	66,387	71,143	71,808							
					目標値	-	62,165	75,000	75,000	75,000	75,000						
					達成率	-	106%	89%	95%	96%	-						
活動	3	教育相談課	SSWによる相談人数(実数)	人	実績値	363	444	473	439	513							
					目標値	-	369	400	400	400	400						
					達成率	-	120%	118%	110%	128%	-						
活動	4	教育相談課	SSWが関係機関と連携した回数	回	実績値	304	492	460	371	376							
					目標値	-	320	340	360	380	400						
					達成率	-	154%	135%	103%	99%	-						
活動	5	教育相談課	校内委員会にSSWが参加している割合 (令和3年度目標値変更指標)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
					実績値	29	77	39.1	97.1	53.6	100	58.8	100	68.7	100		
					目標値	-	-	35	80.8	40	100	50	100	80	100	100	100
					達成率	-	-	112%	120%	134%	100%	118%	100%	86%	100%	-	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動6	教育相談課	教育相談に係る研修会の教員受講者数 (令和3年度目標値変更指標)	人	実績値	150	0	158	137	145	
				目標値	-	150	150	150	150	150
				達成率	-	0%	105%	91%	97%	-
活動7	教育相談課	教育相談研修の受講教員が、各学校において、研修内容を活用した割合(令和2年度よりアンケート実施予定)	%	実績値	-	0	64	94	99	
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	64%	94%	99%	-
活動8	教育相談課	学校支援員の派遣により支援した学級数【学校支援員の数】 (令和3年度目標値変更指標)	学級	実績値	20	24	33	36	33	
				目標値	-	25	30	35	43	50
				達成率	-	96%	110%	103%	77%	-
			人	実績値	6	7	7	9	9	
				目標値	-	8	10	10	10	10
				達成率	-	88%	70%	90%	90%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育相談課
戦略2	不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援		
めざす方向性	不登校の未然防止・早期対応については、魅力のある学校づくりや学校・教育委員会・関係機関等との連携により、各校における組織的対応の強化を図っていきます。 不登校児童・生徒への支援については、学校への復帰や社会的自立に向け、個の状況に応じた多様な教育機会・学習機会を確保していきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

		No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6	
成果	1	教育相談課	不登校児童・生徒数(年間30日以上 の欠席者) ※低減目標	人		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	239	697	312	665	318	678	371	791	572	960	/	/
					目標値	-	-	236	691	280	656	300	650	300	700	220	660
					達成率	-	-	76%	104%	88%	97%	81%	82%	52%	73%	-	-
成果	2	教育相談課	新規の不登校児童・生徒数 ＊低減目標	人		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	110	316	197	177	183	295	189	455	276	268	/	/
					目標値	-	-	107	303	100	280	170	280	130	260	90	240
					達成率	-	-	54%	171%	55%	95%	90%	62%	47%	97%	-	-
成果	3	教育相談課	中学1年生の不登校生徒数に占める 新規不登校生徒の割合 ＊低減目 標 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-		-		-		65		47		/	
					目標値	-		-		-		80		75		70	
					達成率	-		-		-		123%		160%		-	
成果	4	教育相談課	校内委員会での協議に基づく指導に より、不登校の状況が改善した児童・ 生徒の割合	%	実績値	37		32		40		41		50		/	
					目標値	-		38		40		45		45		45	
					達成率	-		83%		100%		91%		111%		-	

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果5	教育相談課	登校サポーター派遣で別室登校支援をし、状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	68	68.1	66.8	58.5	45.7	
				目標値	-	70	70	72	74	75
				達成率	-	97%	95%	81%	62%	-
成果6	教育相談課	チャレンジ学級で支援し、状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	70	70.1	72.2	64.8	70.2	
				目標値	-	71	72	73	74	75
				達成率	-	99%	100%	89%	95%	-
成果7	教育相談課	オンライン授業に定期的に参加できる等、学習活動のリズムが改善された不登校児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	12.9	18.7	
				目標値	-	-	-	5	10	20
				達成率	-	-	-	258%	187%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育相談課	不登校児童・生徒に対して不登校対応マニュアルに基づき支援した割合(令和2年度より算定)	%	実績値	-	100	100	100	100	
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	100%	-
活動2	教育相談課	SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数)(戦略1の再掲)	回	実績値	74,517	66,126	66,387	71,143	71,808	
				目標値	-	62,165	75,000	75,000	75,000	75,000
				達成率	-	106%	89%	95%	96%	-
活動3	教育相談課	SSWによる相談人数(実数)(戦略1の再掲)	人	実績値	363	444	473	439	513	
				目標値	-	369	400	400	400	400
				達成率	-	120%	118%	110%	128%	-
活動4	教育相談課	校内委員会において支援方法等を協議した延べ回数【対象児童数】【対象生徒数】(令和3年度変更指標)	回	実績値	-	5,287	5,576	5,580	5,632	
				目標値	-	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
				達成率	-	88%	93%	93%	94%	-
			人	実績値	-	-	-	241	332	
				目標値	-	-	-	292	283	274
				達成率	-	-	-	83%	117%	-
			人	実績値	-	-	-	552	760	
				目標値	-	-	-	625	606	587
				達成率	-	-	-	88%	125%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
活動	5	教育相談課	校内委員会にSSWが参加している割合 (戦略1の再掲)	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	29	77	39	97	54	100	59	100	69	100		
					目標値	-	-	35.0	80.8	40	100	50	100	80	100	100	100
					達成率	-	-	112%	120%	134%	100%	118%	100%	86%	100%	-	-
活動	6	教育相談課	長期欠席児童・生徒状況表で情報のあがった人数 ※低減目標 【中学1年生の数 ※低減目標】 (令和4年度目標値追記指標)	人	実績値	1,622		1,939		2,404		2,359		2,582			
					目標値	-		1,602		1,600		1,570		1,550		1,500	
					達成率	-		83%		67%		67%		60%		-	
				人	実績値	-		-		-		441		423			
					目標値	-		-		-		167		160		156	
					達成率	-		-		-		38%		38%		-	
活動	7	教育相談課	小学校が小学6年生の長期欠席児童・生徒支援シート(共通シート)を作成し、進学先の中学校へ引き継ぎ指導を行った割合 (令和2年度より算定)	%	実績値	-		88		100		100		100			
					目標値	-		-		90		93		95		100	
					達成率	-		-		111%		108%		105%		-	
活動	8	教育相談課	登校渋りや教室に入れない児童・生徒に対し、登校サポーターを派遣した回数 【登校サポーターの人数】 (令和3年度目標値変更指標)	回	実績値	1,852		4,578		5,096		5,250		6,427			
					目標値	-		4,500		4,500		4,500		4,500		4,500	
					達成率	-		102%		113%		117%		143%		-	
				人	実績値	51		74		104		99		104			
					目標値	-		54		70		70		70		70	
					達成率	-		137%		149%		141%		149%		-	

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動9	教育相談課	登校サポーターが支援した児童・生徒数【お迎え支援】 (令和4年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	52	56	
				目標値	-	-	-	-	20	20
				達成率	-	-	-	-	280%	-
活動10	教育相談課	登校サポーターが支援した児童・生徒数【別室登校支援】 (令和4年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	277	341	
				目標値	-	-	-	-	180	180
				達成率	-	-	-	-	189%	-
活動11	教育相談課	チャレンジ学級へつなげるため、不登校児童・生徒に対し働きかけを行った回数 【正式通級となった人数】	回	実績値	1,362	1,209	933	1,718	1,408	
				目標値	-	1,435	1,500	1,500	1,650	1,800
				達成率	-	84%	62%	115%	85%	-
			人	実績値	78	88	83	105	104	
				目標値	-	120	120	120	120	120
				達成率	-	73%	69%	88%	87%	-
活動12	教育相談課	NPOと連携した学習・居場所支援の登録児童・生徒数【平成30年度 1箇所10人、令和3年度以降 4箇所70人】 (令和4年度目標値変更指標)	人	実績値	10	52	67	79	66	
				目標値	-	50	60	60	70	70
				達成率	-	104%	112%	132%	94%	-
活動13	教育相談課	チャレンジ学級・あすテップでオンライン授業を受講した通級生の割合 (令和4年新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	54	54	
				目標値	-	-	-	60	80	100
				達成率	-	-	-	90%	68%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	支援管理課
戦略3	切れ目のない特別支援教育の推進		
めざす方向性	心身の発達に支援を必要とする子どもたちに、早い時期から発達段階に応じた支援を行うため、「気づく」「つなぐ」「支える」の3つの視点から、関係機関同士の連携を図り、一人ひとりの成長や生活環境に応じた切れ目のない相談・支援を強化していきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果1	支援管理課	就学相談が完結した割合＜小学校入学、小・中学校＞	%	実績値	99	99	99	99	99	
				目標値	-	99.2	99	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	99%	99%	-
成果2	支援管理課	こども支援センターげんきで発達相談を受けた児童のうち、関係機関と連携できた割合＜就学前＞ (令和4年度目標値変更指標)	%	実績値	90	97	98	98	98	
				目標値	-	91.3	98	98	98	99
				達成率	-	106%	100%	100%	100%	-
成果3	支援管理課	発達支援児の行動上の課題が軽減又は現状維持したと判定された児童の割合【支援軽減・維持人数/継続支援児数】＜就学前＞ (令和4年度目標値変更指標)	%	実績値	89	95	96	97	91	
				目標値	-	90	95	96	97	97
				達成率	-	106%	101%	101%	94%	-
成果4	支援管理課	特別支援教室での指導により困り感が改善(退室)した児童・生徒の割合	%	実績値	5.8	7.1	9.1	12.9	18.8	
				目標値	-	6.5	7.5	9.5	13	10
				達成率	-	109%	121%	136%	145%	-
成果5	支援管理課	ペアレント・メンター(発達障がい特性のある子の育児経験がある保護者)による相談件数のうち、2回以上相談にかかっているリピーターの割合	%	実績値	68	59	85	75.9	78.9	
				目標値	-	69.2	72	85	75	75
				達成率	-	85%	118%	89%	105%	-
成果6	支援管理課	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を実践している教員の割合	%	実績値	-	0	70	80	90	
				目標値	-	-	70	80	90	100
				達成率	-	-	100%	100%	100%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果7	支援管理課	特別支援教室利用の児童・生徒のうち、教室環境の改善を図ることで、困難さが軽減されたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	29.5	32.2	
				目標値	-	-	-	80	80	100
				達成率	-	-	-	37%	40%	-
成果8	支援管理課	個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受け、主体的に学習に取り組めたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	24.9	25.6	
				目標値	-	-	-	30	35	50
				達成率	-	-	-	83%	73%	-
成果9	支援管理課	ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受け、積極的に授業に参加できたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	44.2	41.1	
				目標値	-	-	-	25	50	65
				達成率	-	-	-	177%	82%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	支援管理課	「心理相談」「発達相談」「出張相談」の件数	件	実績値	2,226	2,236	2,346	2,399	2,417	
				目標値	-	2,272	2,250	2,420	2,400	2,500
				達成率	-	98%	104%	99%	101%	-
活動2	支援管理課	子育てサロンへのお出張講座の開催【参加者(組)】(令和元年度新規事業)	回	実績値	-	0	0	10	9	
				目標値	-	-	10	10	10	24
				達成率	-	-	0%	100%	90%	-
			組	実績値	-	0	0	95	75	
				目標値	-	-	70	70	100	140
				達成率	-	-	0%	136%	75%	-
活動3	支援管理課	「4歳の気づきのしくみ」の実施園の割合(対象園:認可保育所・区立認定こども園)	%	実績値	70	65.4	70.7	73.1	75.1	
				目標値	-	73.3	67	75	77	90
				達成率	-	89%	106%	97%	98%	-
活動4	支援管理課	チューリップシート(就学支援シート)の提出率	%	実績値	67	97.9	100	100	100	
				目標値	-	72.5	100	100	100	100
				達成率	-	135%	100%	100%	100%	-
活動5	支援管理課	発達支援委員会で特別支援を要すると判定された3～5歳児のうち、「園生活支援シート(個別支援計画)」を作成した割合(令和2年度より算定)	%	実績値	-	46	47	78	100	
				目標値	-	-	49	75	80	100
				達成率	-	-	96%	104%	125%	-
活動6	支援管理課	就学移行プログラムの実施小学校数	校	実績値	3	7	0			
				目標値	-	7	7			67
				達成率	-	100%	0%	-	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動7	支援管理課	就学支援委員会の実施回数	回	実績値	30	22	20	27	25	
				目標値	-	30	20	24	27	30
				達成率	-	0.7	1	1.1	0.9	0
活動8	支援管理課	特別支援学級(固定学級)の設置校数	校	実績値	29	29	30	30	30	
				目標値	-	29	30	30	30	30
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動9	支援管理課	特別支援教室(コミュニケーションの教室)の設置校数	校	実績値	81	104	104	103	102	
				目標値	-	104	104	103	102	102
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動10	支援管理課	スクールアシスタントの配置申請に基づき、スクールアシスタントを配置することができた子どもの割合(令和3年度指標名変更)	%	実績値	93	94.6	97.8	82	87	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	95%	98%	82%	87%	-
活動11	支援管理課	ペアレント・メンターによる相談件数【利用者数】	件	実績値	103	99	87	90	96	
				目標値	-	106	108	90	100	120
				達成率	-	94%	81%	100%	96%	-
			人	実績値	52	128	130	143	138	
				目標値	-	69	140	140	145	156
				達成率	-	185%	93%	102%	95%	-
活動12	支援管理課	特別支援に係る研修会に参加した学校の割合(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	85	90	
				目標値	-	-	-	90	90	100
				達成率	-	-	-	94%	100%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 1 3	支援管理課	個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	33	34	
				目標値	-	-	-	40	60	90
				達成率	-	-	-	83%	56%	-
活動 1 4	支援管理課	ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度追加指標)	%	実績値	-	-	-	57	52	
				目標値	-	-	-	50	70	90
				達成率	-	-	-	114%	74%	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略4 いじめの早期発見・早期対応

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育指導課
戦略4	いじめの早期発見・早期対応		
めざす方向性	いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得るとの認識の下、いじめに関する相談体制の充実や、学校と各関係機関における情報共有及び連携した対応により、いじめの早期発見・早期対応を図ります。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30		R2		R3		R4		R5		R6	
成果1	1	教育指導課	いじめに関するアンケートで「相談できる人がある」に肯定的な回答をした小・中学生の割合 ※2月実施	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	99.3	98.6	99.6	98.1	99.4	97.9	99.6	98.4	99.3	98.4		
					目標値	-	-	99.4	98.8	99.7	98.6	99.8	98.8	99.9	99.9	100	100
					達成率	-	-	100%	99%	100%	99%	99%	99%	99%	98%	-	-
成果2	2	教育指導課	小・中学校におけるいじめの解消率	%		小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
					実績値	67.8	75.5	77	77.4	83.8	84.9	74.5	79.6	79.3	81.1		
					目標値	-	-	69	76.3	76.5	78	84	85	75	80	75	80
					達成率	-	-	112%	101%	110%	109%	89%	94%	106%	101%	-	-
成果3	3	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」に肯定的な回答をした小・中学生の割合	%		小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3
					実績値	95.8	95.2	-	-	96.2	95.4	96.4	95.9	96.5	95.7		
					目標値	-	-	96.5	96.0	96.8	96.7	97	97	98	98	100	100
					達成率	-	-	-	-	99%	99%	99%	99%	98%	98%	-	-

第3章 評価シート(実績値)

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略4 いじめの早期発見・早期対応

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育指導課	いじめ相談(いじめ電話相談、ネット相談)受付件数	件	実績値	35	20	38	77	135	
				目標値	-	36	25	30	35	40
				達成率	-	56%	152%	257%	386%	-
活動2	教育指導課	足立区いじめ等問題対策委員会の実施回数	回	実績値	3	3	3	3	5	
				目標値	-	3	3	3	3	3
				達成率	-	100%	100%	100%	167%	-
活動3	教育指導課	「いじめ・自殺予防に関する研修会」への参加割合【受講対象者306人】 (令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	103	118	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	103%	118%	-
活動4	教育指導課	教科等において、いじめ防止に関する指導を行う学校の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100	100	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	100%	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実

戦略1	安全で環境に優しい施設整備……………	107
戦略2	適正規模・適正配置……………	111
戦略3	学校運営支援……………	113
戦略4	就学環境の整備……………	117

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略1 安全で環境に優しい施設整備

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	学校ICT推進課 学校施設管理課
戦略1	安全で環境に優しい施設整備		
めざす方向性	改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の高効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果1	1	学校施設管理課	令和2～6年度までの全体保全工事 予定校12校のうち、全体保全工事が完了した学校の割合(令和2年度より指標名変更)	%	実績値	-	0	42	67	75	
					目標値	-	-	50	58	75	100
					達成率	-	-	84%	116%	100%	-
成果2	2	学校施設管理課	トイレ洋式化率	%	実績値	61	75.5	86.3	88.2	89.1	
					目標値	-	64.2	84.6	88.1	88.5	88.5
					達成率	-	118%	102%	100%	101%	-
成果3	3	学校施設管理課	教室照明のLED化率	%	実績値	22.1	30.8	42.7	52	58.8	
					目標値	-	27.2	44.7	54.9	60.8	69.6
					達成率	-	113%	96%	95%	97%	-
成果4	4	学校ICT推進課	普通教室・特別教室のうち、Wi-Fi環境導入が完了した教室の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	83.1		
					目標値	-	-	-	83.1	100	100
					達成率	-	-	-	100%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略1 安全で環境に優しい施設整備

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	学校施設管理課	各年の保全工事対象校のうち、工事予定工程が完了した割合	%	実績値	100	0	89	117	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	89%	117%	100%	-
活動2	学校施設管理課	設備点検を実施した学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動3	学校施設管理課	維持補修工事により安全を確保した学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動4	学校施設管理課	体育館へのエアコン設置完了校の割合	%	実績値	1	100	100	100	100	
				目標値	-	17.5	-	-	-	100
				達成率	-	571%	-	-	-	-
活動5	学校施設管理課	トイレ改修対象校のうち、洋式化を完了した学校の割合 (平成30年度 32.8%=22校/67校)	%	実績値	32.8	56.7	94	100	100	
				目標値	-	44	94	100	-	100
				達成率	-	129%	100%	100%	-	-

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略1 安全で環境に優しい施設整備

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	6	学校施設管理課	太陽光発電装置の導入校数	校	実績値	17	17	20	21	21	
					目標値	-	18	20	21	21	22
					達成率	-	95%	100%	100%	100%	-
活動	7	学校ICT推進課	各年のWi-Fi環境導入対象教室のうち、Wi-Fi環境導入が完了した教室の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	0		
					目標値	-	-	-	0	100	100
					達成率	-	-	-	-	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略2 適正規模・適正配置

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	学校施設管理課
戦略2	適正規模・適正配置		
めざす方向性	改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の高効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果	1	学校施設管理課	全小・中学校に占める「適正規模校」の割合(令和3年度目標値変更指標)	%	実績値	64.4	62.5	58.7	59.2	58.8	
					目標値	-	64.7	62.5	64.1	64.4	66
					達成率	-	97%	94%	92%	91%	-

成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	1	学校施設管理課	「適正規模・適正配置のガイドライン」に記載のある地区の実施計画策定数(令和5年度変更指標)	件	実績値	-	-	-	-	0	
					目標値	-	-	-	-	2	4
					達成率	-	-	-	-	-	-

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略3 学校運営支援

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	教育政策課 学力定着推進課 教育指導課 学校支援課
戦略3	学校運営支援		
めざす方向性	改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の高効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果	1	青少年課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域に貢献できるような大人になりたい」に肯定的な回答をした小・中学生の割合(令和元年度より実施)	%	実績値	-	R1:63.4	65.2	66	66.9	
					目標値	-	-	65	67	69	70
					達成率	-	-	100%	99%	97%	-
成果	2	教育指導課 学校支援課	教員の1年間の在校等時間の総時間から東京都条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間以下である教員の割合(「足立区立学校における教員の働き方改革実施方針」に基づく)	%	実績値	-	42.5	44.1	39.9	44.3	
					目標値	-	-	54	56	59	100
					達成率	-	-	82%	71%	75%	-
成果	3	教育政策課	小学生一人あたりの本の年間貸出数	冊	実績値	30	39.7	40.7	45.2	46.7	
					目標値	-	31	33	34	35	36
					達成率	-	128%	123%	133%	133%	-
成果	4	教育政策課	中学生の学校図書館の利用割合(1ヶ月の延べ利用者数÷生徒数)	%	実績値	141	97.6	85.7	112.2	131.1	
					目標値	-	146	116	130	150	170
					達成率	-	67%	74%	86%	87%	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略3 学校運営支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	青少年課	開かれた学校づくり協議会主催・共催事業の実施回数	回	実績値	2,601	1,007	369	539	1,252	
				目標値	-	2,668	1,600	1,600	1,600	2,000
				達成率	-	38%	23%	34%	78%	-
活動2	青少年課	開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクールの設置校数 (令和3年度目標値変更指標)	校	実績値	10	12	13	13	13	
				目標値	-	11	14	14	15	15
				達成率	-	109%	93%	93%	87%	-
活動3	学力定着推進課	学校経営計画のヒアリング実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	50	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	50%	100%	100%	100%	-
活動4	教育指導課	一斉退校日等を設定している小・中学校の割合(令和元年度より実施)	%	実績値	-	100	100	100	100	
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	100%	-

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略3 学校運営支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動5	教育政策課	学校図書館支援員週4日配置の小学校の割合(令和5年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	-	34.3	
				目標値	-	-	-	-	33	67
				達成率	-	-	-	-	104%	-
活動6	教育政策課	学校図書館支援員配置の中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動7	教育政策課	学校図書館基本計画及び学校図書館評価シートの活用により、PDCAサイクルに基づく学校図書館運営を行っている学校の割合(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	100	100	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	100%	-
活動8	学校支援課	国基準の図書蔵書数を超えている学校数の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	99	100	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	99%	100%	-
活動9	教育指導課	生活指導員配置の中学校の割合	%	実績値	94	88	91	87.5	94.2	
				目標値	-	95	100	100	100	100
				達成率	-	93%	91%	88%	94%	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略4 就学環境の整備

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	教育指導課 学校支援課 学務課 子ども政策課
戦略4	社会的自立に必要な力の育成・支援		
めざす方向性	改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の高効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。		

戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果	1	学務課	児童・生徒が関係した交通事故の件数 ※低減目標	件	実績値	13	6	15	10	8	
					目標値	-	12	5	10	5	
					達成率	-	194%	33%	100%	63%	
成果	2	教育指導課	日本語適応指導の効果が見られた割合(日本語適応指導講師の所見による)	%	実績値	100	100	100	100	100	
					目標値	-	100	100	100	100	
					達成率	-	100%	100%	100%	100%	
成果	3	学務課	希望校に入学した児童・生徒の割合	%	実績値	99.4	97.4	99.4	99.9	99.5	
					目標値	-	99.5	99.5	99.6	99.8	
					達成率	-	98%	99%	100%	100%	
成果	4	学務課	育英資金の利用者(完済・助成後)を対象にした、育英資金の利用満足度を測るアンケートで肯定的な回答をした割合(令和2年度より実施)	%	実績値	-	69	86	95	91	
					目標値	-	-	70	90	97	
					達成率	-	-	123%	106%	94%	

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略4 就学環境の整備

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育指導課	セーフティ教室実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	0	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	100%	100%	100%	-
活動2	教育指導課	交通安全教室実施の小学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-
活動3	学務課	通学路合同点検(定期点検)の実施回数	回	実績値	17	23	24	24	21	
				目標値	-	17	25	26	21	23
				達成率	-	135%	96%	92%	100%	-
活動4	学務課	通学路及び放課後活動地域における防犯カメラの設置数 ※ 累計設置台数 (令和4年度新規追加指標)	台	実績値	-	-	-	654	697	
				目標値	-	-	-	662	729	764
				達成率	-	-	-	99%	96%	-
活動5	学校支援課	計画どおりのAED更新台数(屋内設置分) (令和4年度変更指標)	台	実績値	-	-	-	104	104	
				目標値	-	-	-	104	-	104
				達成率	-	-	-	100%	-	-
活動6	学務課	AEDを用いた救命講習会の実施校割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100	100	
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	100%	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略4 就学環境の整備

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動7	教育指導課	「日本語適応指導講師」及び「日本語通級指導学級(令和2年度モデル実施)」を利用している児童・生徒数	名	実績値	154	200	100	189	248	
				目標値	-	164	170	180	200	215
				達成率	-	122%	59%	105%	124%	-
活動8	学務課	区立小学校に就学申請する外国人児童の割合	%	実績値	80.1	89.6	83	86.7	87.5	
				目標値	-	80.4	82	82	82	82
				達成率	-	111%	101%	106%	107%	-
活動9	学務課	夜間中学の学級数	学級	実績値	6	5	5	5	5	
				目標値	-	6	6	6	6	6
				達成率	-	83%	83%	83%	83%	-
活動10	学務課	小・中学校の新1年生が希望選択票を提出した割合	%	実績値	97.6	96.8	96.7	93.8	92.7	
				目標値	-	97.8	97.9	98	98	98.5
				達成率	-	99%	99%	96%	95%	-
活動11	幼稚園地域保育課	子育てのための施設等利用給付費受給率(幼稚園)(令和元年10月より実施)	%	実績値	-	100	100	100	100	
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	100%	-
活動12	学務課	育英資金制度の周知件数(「中学・高校・大学への案内」「個別相談会」「イベント会場でのパンフレット配付」等の合計件数)	件	実績値	171	187	206	235	247	
				目標値	-	179	190	210	245	220
				達成率	-	104%	108%	112%	101%	-

